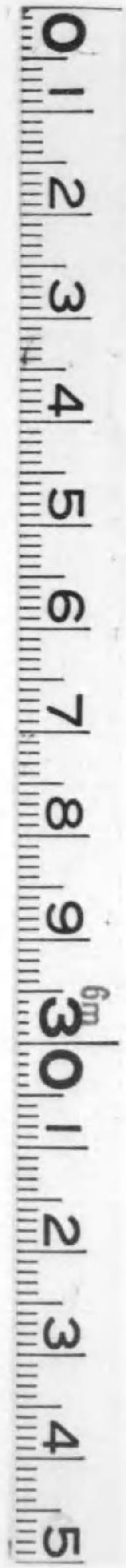


318

400



始





IF 648

318  
400



大陸軍臣 田中義一 述

帝國の使命と青年の覺悟

東京 誠文堂發行

大正  
7. 11. 30  
内交



## 本書の刊行に就いて

英國内外情勢研究會が、常に日英兩國親善のために努力しつゝあるは、世の周知する所なり。今春、同會は余に信を送りて曰く「我等が最も親善なる日本帝國の國運が旭日の昇るが如く隆なるは、吾等同盟國民の大に愉快とし亦美望に堪へざる所なり。今や吾等聯合國々民は終局の勝利を收めんがため、多大の犠牲を拂ふて努力しつゝあり、平和の日即ち凶獨の亡びんこと最早遠き將來にもあらざる可し、正に此時に當りて吾等英國國民は眞に日本帝國を了解すべく總ゆる方面に對つて研究せんと欲す。是彼我國民の意志疎通は兩國を親善ならしむる大なる而も最も堅固なる連鎖なりと信ずればなり。本會即ち此に見る所あり、先づ其第一着手として貴國青年團理事にして在郷軍人會理事を兼ねたる名譽ある田中將軍が、如何に青年及在郷軍人を指導し激勵しつゝあるかを知り、或はまた同將軍の兩者に對する指導法と抱負とを聴き之を普く英



國々民に知らしめんがため、英譯書として刊行せんと欲す、蓋し在郷軍人は日本帝國の光榮ある歴史を物語る武士道の象徴にして、青年は大和民族の華なりと信ずればなり。

貴下が、吾等の意を將軍に傳へて許諾を得ば、幸福や、啻吾等英國々民の爲めのみならず可し」と、余即ち之を將軍に請ふて快諾を得たり。爾來半歲英譯漸く成り今や同會編輯主任ハドソン博士の校閲中なれば上梓するの日亦遠にあらざる可し。即ち本書は其原文なるも、當時將軍參謀次長の劇職に在り今亦陸相の重任を帯ぶ。而も國事多端の際到底之が校閲の勞を煩はすに忍びず、余自ら全責任を負ひて之を刊行せり。書中或は珠玉を變して瓦礫と化したるを保し難きも、帝國の現狀と其前途を思へば細瑕の如き顧みるの遑なし、庶幾くば累を將軍に及ぼすことなからんことを。

大正七年初冬

編者野中春洋稿之

## 帝國の使命と青年の覺悟目次

- 一、歐洲戦争は何を教へたか……………一
- 二、我が青年團の根本主義……………一五
- 三、青年修養の手段……………一九
- 四、農村青年指導の原則……………二四
- 五、青年團の實際的修養……………三〇
- 六、青年團と軍事豫備教育……………三九
- 七、農村振興に就て分會員諸君に告ぐ……………四四
- 八、極東の大危機……………五三
- 九、攻勢的精神を發揮せよ……………五九



四

十、使命を果し得る力……………六六

十一、早起は三文の徳……………七四

十二、働いて家を富まし國を盛んにせよ……………八一

十三、日本人は眞に此の如きか……………八五

十四、恐るべき思想の壓迫……………八九

十五、一日は一日より重し……………九六

十六、斷行を要す……………一〇二

十七、大覺悟を要する場合……………一一一

十八、平生の覺悟……………一二六

十九、露國に於ける國民軍事豫備教育……………一二九

二十、精神を緊張せしめよ……………一三四

廿一、情を抑へて慾に打勝て……………一三八

廿二、名譽は生命よりも重い……………一三二

廿三、鐵石のやうな心で志を貫け……………一三八

廿四、武士に二言はなかつた……………一四二

廿五、帝國の元氣……………一四六

廿六、支那土產鍊不鍊……………一五〇

廿七、米國に於ける國民教育の急變化……………一五五

廿八、獨逸の義勇青年團……………一六二

廿九、世界に於ける思想の變化と自給自足の觀念……………一七一

三十、看過されたる大誘惑……………一八二

卅一、新編壯丁讀本の精神に就て……………一八五

卅二、更に一段の自覺と努力……………一八九

卅三、在郷軍人諸君に告ぐ……………一九六

五



六

卅四、おたづねに答ふ ..... 二〇七

卅五、神社と在郷軍人分會 ..... 二二三

卅六、青年の體力と在郷軍人諸君の責務 ..... 二二七

卅七、特に考慮を要する重要問題 ..... 二三四

卅八、地方人士に代つて隊長諸君に訴ふ ..... 二三三

卅九、分會に對する地方官側の感想 ..... 二三九

四十、中隊長並分會長諸君に希望す ..... 二五〇

四十一、分會長諸君に一言す ..... 二五七

四十二、徴兵検査を受けたる壯丁並に其父兄に告ぐ ..... 二六〇

四十三、軍隊教育と國民教育 ..... 二六六

四十四、指導上に就ての要求 ..... 二九二

# 帝國の使命と青年の覺悟

陸軍大臣 田中義一 述

## 歐洲戰爭は何を教へたか

歐洲戰爭は、世界が出來てからの大戰爭である。世界の強い國が、一つも残らず敵味方になつて戦つてゐるといふことから見ても、各國の戦に出て居る人の數から云ふても、それに使はれてゐる種々の新しい武器や、戦争の仕方や、其他の色々の設備の上からいふても、これ迄に類のない大きな戦である、成る程年數の上から云つたら、まだ此戦争よりも長く續いたものがないではないが、その點だけをこつてしまへば、歐洲戦争は人間がした戦争の中での一番大きな戦争である。それにつれて

歐洲戦争は何を教へたか



また、此までの戦争になかつたいろ／＼な變つたことが起り又いろ／＼な變つたことが分つて來たのである。それはどういふことであるか。

第一には、これ迄の戦争といへば、先づ軍隊と軍隊とがするといふ位のものであつたが、今度の歐洲戦争は、そんな小さいものではなく、男も女も小供も老人も、國民の一人も残らずが皆戦争の爲に懸命になつてゐるといふ大仕掛けなもので、此點から見ても、歐洲戦争は今迄の戦争とは甚だ様子がちがつて居るのである。先づ召集されたものゝ數を見ても、露西亞では男子の人口八千八百四十萬の中、千六百六十萬人が召集され、佛國では男子人口千九百六十萬の中、六百九十二萬人が召集され、英國では男子二千二百萬中、六百〇三萬人が召集されて居る。又敵の方でも、獨逸では男子の人口三千三百五十萬の中、千二百三十五萬人が召集され、澳太利では男子の人口二千五百四十萬の中、九百萬人が召集されて居る。故に聯合軍の方は男子の人口の五分の一は召集され、中でも佛蘭西は三割五分即ち男百人中三十五人は召集され、敵の方も大

抵男子の三分の一は戦場に出て居る割合である。よく考へて見ると、男といつても生れたばかりの赤ん坊も男であり、老翁さんも男であるから、その五分の一とか三分の一とかいふ召集されて居ると云へば、まづ、自分で思ふやうに動くことの出来る者は、皆戦に出てゐるものと見ても宜しいのである。それに、歐洲戦争には、老人でも小供でも、乳飲兒までも、戦争に關さはつた。といふのは、達者な女は、男が戦に出た爲に、彈藥や武器を製へる手傳ひをするばかりか、此迄平生男がしてをつた色々の業務の代理をする。或は電車や汽車や自動車の運轉手となる、車掌になる、郵便電信の配達人となる。日本などゝちがつて、此迄農業などしてゐなかつた女が、男に代つて鋤をとる、鋤を取る。礦山の坑夫になる、何でもかでも女の腕で出来ることは、みな男の代りとなつて働く。なかには自ら銃を執つて戦場に立つた女もある。またいろ／＼の國の青年や少年隊などは、飛行機の襲ふて來るのに氣をつけて、いざと云ふ時に傳令の役目をつとめたり、食糧の運搬や農業の手傳ひなどをやる。またさう云ふ様



な仕事の出来ない者は、飲むものや食ふものを儉約したり、粗末な食物で我慢をしたり、乳飲兒までが牛乳を儉約されたりする。かうしてまづいものを食べ、ひもじい目をみて迄も、自分の愛する國が充分に戦争の出来るやうにし、誰れ彼れの差別なく、差當つて必要でない産業に従つて居るものは、皆直接に戦争に關係のある方面に向けられたといふことである。さうして獨逸の如きは、革がだんぐり足らなくなつたので、器械を動かす革紐を作る爲に、アルサス州の婦人の如きは、自分の頭髪を切つて政府に献納して、以て國の爲に盡して居るのである。

つまり歐洲戦争は、達者な男は皆戦に出て、其他のものでも、國民の一人のこらすが、何か戦争に關係のあることをすると云ふ大仕掛な戦争で、最初は軍隊と軍隊との戦であつたのが、遂に國民の根氣比べの戦争となり、どの國民の根氣が長く續かといふ忍耐力の戦争となつたのである。これからの大戦争は皆かう云ふ戦争になるのである。

第二には、國民の身體が立派に練られてゐるは云ふまでもないこと、精神が充分に鍛はれて居て、修養がつんで居る國は戦にも強いが、それが充分に行き届かないで居る國民は、自然と國を愛するといふ考も足らず、戦にも負けるし國も滅茶々々になつて仕舞ふといふことが歐洲戦争ではつきりと分つたのである。其善い方の例が獨逸で、悪い方の例が露西亞である。どんなに國は大きくとも、國民が充分に修養を積んで、國を愛する考が厚くないと露西亞の様なものになつて仕舞ふ。日露戦争で、露西亞が日本の爲に散々な目に會つたのも、今度の大戦争で又露西亞が滅茶々々になつたのも、つまりは國民の修養といふことが充分に出来て居なかつた爲であるけれども、その反對であると、獨逸のやうに、澤山の強い國を相手にしても、なか／＼見事な戦をする事が出来るのである。即ちこれからの戦争では、軍隊が強いばかりではなくて國民が強くなければ駄目だ。國民が皆強くて戦にも勝てるものだ。そして國民が強い爲には、青年の時から、その精神が充分に鍛はれ、修養がつんでゐて、正義を愛するといふ



心が強く、いざといふ時には、何時でも身命を抛ち、國家の爲に死に就くといふ覺悟を持ち、勇ましく、剛く健しい、進んで何事でもするといふ氣象になつてゐなければならぬといふことがよく分つたのである。

第三には、戦争といふものは軍隊や軍艦ばかりで出来るものでなくて、彈藥を製造するにも、大砲を鑄造するにも、皆それ／＼材料がなければならず、また食べないで戦争は出来ぬものであるから、農業も工業も商業も學問も、平生から充分に榮えて居らぬと、いざといふ時に、思ふやうな戦争は出来るものでないといふことが、非常にはつきりと此歐洲戦争で分つて來たのである。即ち澤山の人が戦争に出ると、食物をこしらへる人が減る、食物が減ると戦も出来ねば國民も飢える、だから其時の準備も平生から用意して置かねばならぬ。火藥を作るにもいろ／＼な藥がある、大砲を造るにも澤山の鋼鐵が要る、斯う云ふものが平生から充分に出来るやうな國になつて置かねば、本當の勝ち戦は出来るものでない。それには青年は勿論、戦に出るものも、

出ないものも平生から各自にしなければならぬ各自の仕事を、一生懸命でやつて置かねければならぬと云ふことが分つたのである。

第四には白耳義や、モンテネグロ等の例を見ても分るやうに、國が弱いと敵の爲に何もかも滅茶々にされて、國主は外國に逃げ出す、財産も寶物も皆敵の爲にとられる、そして人は皆ひどく追ひ使はれるやうな、情ない目に遇はなければならぬ。即ち國家が立派に榮えて居らぬと云ふと、其國の人民の幸福といふことは全くなくなつてしまふことがあるから、國民は先づ第一に自分の國のことを考へ、平生から、自分の爲といふよりも、自分の國の爲に眞面目になつて働き、家を榮えさせ、國を富まし、そして充分に國家を強くして置いて、いざといふ時には、自分の國の爲に命をさしげ、どこまでも盡せる丈けを盡さなければならぬといふことが分つたのである。

第五にはまた、戦争が長くつゞけば續くほど、金が澤山入るのであるから、國民は



どこまでも其金を出して戦争を續けて行つて、最後には戦に勝つやうにせねばならぬそれが爲には、國民が平生から出来るだけ儉約をし、質素な生活をして、金をためて置かなければならぬ。それでなければ、此からの戦には直ぐに負けてしまはなければならぬと云ふことが分つた。假に歐洲戦争の費用を調べて見ると、大正六年の秋頃までに、英佛露の聯合軍で、最初から使つた金は千三百九十二億圓と云ふ大變な高に上り、毎日使つてゐる費用が一億八千萬圓近くであつて、獨逸と埃太利の方の最初からの費用は六百五億で、毎日七千萬圓近く宛費して居たのである。だから此からの戦争では、兵隊ばかり強くても勝てるものではない、國民が皆強くて國が金持ちでなければ駄目である。國が富んでゐる爲には、國民が平生から充分に働いて金持になつて居らなければならぬ。そして食物なども平生から粗食に甘んじ、いざといふ時の缺乏に耐えられるやうにして置く必要があるといふことが分つたのである。

ところで、いくら續くといつても、此戦争も早晚片がつかなければならぬが、さてその片が、ついたとすれば、その後ではどんなことが起るか、またそれにつれてはこれからの日本はどうゆふ地位に立つことになるかと云ふと、先づ戦争が濟めば、戦争の爲に受けた種々の損害を、出来るだけ早く、償ふてゆくことが最も必要なことである。一日でも早くそれをする事が出来た國が、一日だけ早く舊へ戻ることが出来た従つて他の國よりも餘計に榮える事が出来るからである。それにはいずれの國も一生懸命になつて、商業を盛んにし、工業を榮えさせる。農業にも學問にも熱心にならなければならず、又争ふてさうするにきまつて居るのであるけれども、戦争前までの有様から見ても、戦争最中の様子から考へても、獨逸も戦争が濟むと直ぐさま、かう云ふ方面に一生懸命になり、工業を盛んにして、色々な安くて良い品物をこしらへ、戦争前よりも一層手廣く、世界の方々にそれを賣弘めるやうになるにきまつてゐる。中でも獨逸が最も商賣を盛にして、他の國と競争しやうとする場所は、印度だとか支



那だとかいふ東洋の方であることも間違ひはないのである。何故だといふと、かういふ國では、工業が進んで居らぬが爲に、善いものが安く出来ない上に、獨逸のこしらへた良くて安い品物が、他の國の悪くて高い品物を押しつけて、戦争前には、恐ろしい勢で、どん／＼と賣れて行つたといふ證據があるからである。

してみると日本が、之から先東洋に於て、一番劇しく競争しなければならぬ國は、云ふまでもなく獨逸である。獨逸はこの戦争前から、日本を邪魔扱ひにし、何とかして日本をいちめて見たい、日本を滅したいと思つて居る處へ、此戦争が起つて、却つて日本は青島で獨逸をいちめたのであるから、日本と獨逸とは、どこからどこまでも睨み合はなければならぬのである。これから先日本が戦争をすることがあるとすればそれは獨逸とすることになるのであらう。つまり日本はこれから先戦をするにしても獨逸を相手にし、商業や工業で競争をするにしても、支那と云ふ大土俵の上で、獨逸を相手にして、大相撲をとらねばならぬといふ大變な荷の重い地位に立つて居るのである。

此からの日本が斯ういふ地位にあるものだとすれば、今後の日本を背負つて立たなければならぬ今日の青年は、どうしなければならぬか、又どうすれば立派に日本が獨逸に勝つことが出来るかといふとそれには今日の青年諸君がこれから先立派な良い國民となるやうにしなければならぬ。立派な良い國民となるといふことは、青年諸君が、強健な練りあげた體格と、鍛ひ上げた精神とをもつた國民となるといふことである。體格が丈夫でないと戦争はいふまでもなく、平生の仕事をするにも思ふやうになるものではない、鍛ひ上げた精神とは何であるかと云ふと、剛健な勇武な氣をもつて居ていつも正しいことをするといふことを心掛け、そして棚から牡丹餅の落ちて來るのを待つて居るといふ風でなく、取るべきものは進んで行つて取るといふ心もち、平生から質素な儉約な生活をして、家業を勵んで、出來るだけ深山金錢を貯め、どんな困つたことでも、また苦しいことでも我慢をし、どれ程物が缺乏した時でも、それを耐



えることが出来て、いざと云ふ時には、身命を犠牲にして、君の爲國の爲、櫻の花が散るやうに、潔く死ぬることの出来る精神を云ふのである。つまり斯う云ふ鍛ひ上げた精神と、丈夫な身體を持つた國民が、これからの日本には益々入り用であり、かういふ國民が本當に此から先の日本の敵に勝つことの出来る善い國民である。かういふ風な鍛ひ上げた精神と、練り上げた丈夫な身體をつくり上げるといふことが、今日の青年のしなければならぬ修養といふもので、またそれをするのが本當の立派な青年の今日からして置かなければならぬ本分なのである。そしてまた日本の青年は、どうしてもそれをしなければならぬのである。

それでは、青年が其精神を鍛ひ上げるにはどうすれば宜しいかと云ふと、それには先づ協同、服従、規律といふ三つの徳をつんで、身を修めなければならぬ。協同といふことは、誰も彼も何事にも心を一つにして働くといふことで、服従といふことは目上の人の云ふことや、法律や命令をよく守ることで、規律といふことは物事に順序をた

て、きまりをつけるといふことである。先づ此三つが十分に出来上つて、始めて、いざといふ時には、身も命も犠牲にして、天皇陛下の爲にも死に、國にも立派に盡すといふことが出来るのである。そしてその、君の爲に死に、國に盡すといふことが、日本の國に生れたものにとりて、最も大切なる忠君愛國といふことなのである。つまり忠君愛國といふことは、平生は良い國民になつて、自分のすべき家業を勵み、いざといふ時には、勇んで君の爲國の爲に命をすてるといふことである。

昔から日本の國民には此忠君愛國心が厚く、日本はそれがもとで、今日のやうな立派な國として榮えて來たのであるから、青年は吾々の先祖から此志をうけついで、國の光りと威力をいよ／＼外國に輝かし、日本の國を益々大きな優れた立派なものにするやうにしなければならぬのである。

今日の處では、日本が三百萬の兵を外國に送り出すといふことは中々六ヶ敷いのである。よしそれだけ出したとしても、出した後は、農業をするものが少くなつて、國



民が直ぐ餓えてしまはなければならぬといふやうなことになるのである。けれども歐洲戦争の割からいふと、此から後日本が外國と戦をする時には、少くも一千万の兵は出さなければならぬのである。日露戦争の時に、僅か八十萬ばかり兵を出してさへ大騒ぎであつたのだから、一千万といへばその十二倍であるから、日本の今の有様ではとてもそれだけの兵を送り出すことは容易なことではない。それなのに、日本より人口の少ない獨逸は、歐洲戦争に千二百三十五萬からの兵を出して居る。だから、日本はまだ一餘程奮發せねば駄目である。けれども青年諸君が、今日から出来るだけ身體を丈夫にして、立派に鍛ひ上げた精神をつくり上げて平生からいざといふ時の準備をして置けば、これから先何時戦争が起つても、日本は決して負けるやうなことはないのである。然しながらこの準備と云ひ、身體の鍛錬といひ、精神の修養といひ、決して一朝一夕に出来るものではない。ゆる／＼平生からして置かぬと、いざと云つてさう一時に出来るものではないのである。だから青年は、今日只今から、身體を充分に練つて丈夫にすることに心懸けると同時に、精神を鍛ひ上げることに努めなければならぬ。

### 我が青年團の根本主義

我が日本青年團の根本主義は何處にあるかといふに、世間には往々日本の青年團と軍事との關係に就て疑問を懐く人があるが、是は何等特殊の關係を有つて居るものではない、元來青年團の事業に就ては世界各國各々其國の事情に應じて指導の主義を立てしある。英吉利の少年斥候隊の如く、墮落した國民を救済するといふことを主義とする國もあれば、又佛蘭西の如く青年團が全く軍事豫備教育である所もある。佛蘭西では是が絶対の主義方針であつて、此國の事情として是れでなければならぬのである。何う云ふ譯かといふと、此國は人口が少くて、兵數で獨逸と拮抗することが困難であるから、寧ろ兵の精銳を以て敵を凌がんとし、總ての男子に徴兵適齡以前に於いて一



通りの軍事能力を與へるのである。且つ同時に國民の敵愾心を助長し、犠牲の觀念を旺盛ならしむる必要から此の主義を根本の方針として青年團を導いて居るのである。是れが又今回の歐洲戦争に非常なる効果を顯し、克く優勢なる獨逸軍を支へて今日に及んだのである。唯だ佛蘭西の國情に於いては是れでなければならぬのであつて、總ての國が斯くなければならぬといふ譯はないのである。

然らば日本に於て如何なる主義によつて之を指導すべきか。我國に於て佛蘭西の如き主義を執る必要は無論ない。日本としては、第一に今次の大戦役に於ける經驗に徴し、戦後來るべき思想の大變調にも考へを及ぼし、最近露西亞の潰頽した實例に鑑み且つ交戦各國の強弱の原因を探究して、先づ國民精神の鍛鍊といふことを大眼目となし、此の大眼目の下に青年の體力を旺盛にし剛健なる氣風を養ひ、積極的奮闘的青年を作るといふことではなからぬと思ふのである。即ち日本の今日の狀態に於いては佛蘭西の如く軍人を作る目的の爲に青年團を置く必要はない。一體國の強いと

云ふことは、單り軍隊が強いと云ふだけでは足らぬ。農工商も盛んでなければならぬ學問技藝も進歩して居らなければならぬ。是等のものが俱に共に進んで居つて初めて其國が強いと云へるのである。随つて國の威力と云ふものは其の軍隊のみに非ずして其國の農業、工業、商業、學問、技藝等總て是れ威力である。是等が皆其國の國防の要素でなければならぬのである。それ故に青年團は青年が將來社會に立つて働く上に、或は農業者にならうとも、工業家にならうとも、又軍人にならうとも、學者にならうとも、彼等に共通的に必要とする素質を養つて行く事が根本の目的でなければならぬのである。

而して此素質とは即ち鍛鍊せられたる精神と、強壯なる體力と、剛健なる意氣と、そして常に積極的に進んで行くことと云ふ力である。是等の素質は社會何れの方面に向つて活動するにも必要であつて、此素質を土臺に進むならば適くとして可ならざるはないのである。日本の青年團の指導主義は取りも直さず青年の間に此の素質を養つて行



くといふことである。殊に戦後吾等の競争の對手となるべき歐洲各國は、既に幾百萬の人命と、幾千億の金を費し、實物教育を以て其國の青年を鍛鍊しつゝある。此の實物鍛鍊を経た國民と將來競争しなければならぬのであるから、我國の青年は一入此素質を作ること努力しなければならぬのである。

而して以上の目的を達するには、先づ彼等に共同規律の精神を養はなければならぬ。是が手段として行軍とか、或は教練とか彼等を集團的に訓練することも宜いと思ふ。是等は軍人を作るといふ意味でなく、之に依つて體力を強め、共同心を養ひ、規律正しき習慣を養ふに効果があるのである。是に就ては最近地方長官會議に於いて内務大臣も訓示せられた如く、青年團と在郷軍人會の連繫を一層密にする必要がある。此の如き訓練は一面から云へば即ち一種の公民教育である。又國民皆兵と云ふ意味から云つても、立派な修養の方法であらうと思ふ。其他補習教育に於いても、又實業上の研究に就ても、或は又實地に就て指導して行く上に於ても、今申した主義精神の下に進

むと云ふことでなければならぬ。唯だ其の行方方に至つては、地方の状況によつて差異はあらうけれども、根本の主義方針は何處迄も變ることばないのである。是が内務文部兩大臣の訓令の御趣旨であり、又青年團が事業團に非ずして修養團である所以なのである。

### 青年修養の手段

近頃青年に關する人々の口から盛んに修養といふことを聞くが、甚だ遺憾に思ふのは修養々々と口では喧しく云はれて居り乍ら、一向その実績の擧がらぬことである。是は畢竟修養の必要を説く之急にして、あまり其の實行方法が攻究せられないからであらうと思ふ。乃ち之を現實に行ふといふ段になると、先づその修養の方法を決めることが、一番大切である。

然らば如何なる方針で其方法を決めたら宜いかと云ふと、先づ彼等青年をして思想



を正しく且つ堅固に保たせなければならぬ。其の次には彼等の自制心——克己心を養成することが肝要である。又彼等の品性の墮落を防ぎ、其の風紀を緊張せしむると云ふ意味に於て、彼等の間に剛健なる氣風を養ふといふことは惹いては其の克己心を養成することにもなるのである。そこでこれ等の事を修養せしむる上に就ては、是非とも集團的にやらねばならぬと思ふ。青年の一人一人が勝手にやるといふことは、やらぬに勝るかも知れぬが、得て自墮落に流れ易いものである。殊に近頃のやうに青年を放縱に流れさせては、常に青年を勝手我儘な人間にして仕舞ふばかりでなく、其の弊の赴く所蓋し計り知られぬのである。

青年を集團的に修養せしむるといふことは一面には彼等の共同心を養ひ、義務心を助長することになる。此の共同心の乏しいことは、日本人——廣く云へば東洋人の通有性かとも思はるゝ程であつて、東洋に於ける悪い歴史は、殆んど此の通有性に胚胎して居るといつても宜い。共同と一口に言へば極めて簡單であるけれども、公民教育

も共同であれば、自治も亦是れ共同である。又忠君愛國の精神も實に是より生じて來るのである。殊に世界の列強に伍し東洋の盟主として自ら任ずる帝國の青年は、今から餘程の覺悟を以て掛らねばならぬ。乃ち國民共同の力を以て外に當らねばならぬのであるから特にこの共同心の養成には力を注いで頂きたい、之れには何うしても青年を集團的に修養せしめなければならぬのである。

其れから日本人は組織的の觀念に乏しい、物事に違算が多い。凡そ物事を組織的に計畫して統一的に働かせて行くことは、帝國發展の上が一番大切なことである。又日本人は積極的奮闘的精神に乏しい、何事につけても引込思案をする。青年團指導に當らるゝ人々は、此點をよく、攻究せられて青年を修養せしむるに當つて、彼等に組織的打算の力を養ひ自ら進んで難きにつくといふ積極的奮闘的の意氣を養ふことに意を注がれたいのである。茲に於て是等帝國の青年として有つてをらねばならぬ素質を作つて行く修養の方法を選ぶに就ては大いに指導者の苦心を要するのである。修養



の項目を選ぶに就て第一に心懸けねばならぬのは、其の地方の惡習慣を矯正することである。その土地の事情に依つて何處にも種々悪い習慣のあるものであるが、之れを第一に矯めて行くといふことからして取掛るのである。そして初めは極めて簡單な實行し易い事から掛つて行くことが肝心である。初めから餘り複雑な實行し難い事から取り掛つて行くと往々中途で挫折することがある。それともう一つ指導者の常に注意しなければならぬことは、青年時代は非常に智識慾の旺盛なものであつて、頭が始終新しい方へ新しい方へと移つて行く、従つて一つの事を餘り長く繰り返したり續けたりすると、倦きが來易いものである。指導者は此邊をよく吞込んで居つて、時々修養の項目を代へて、目先を新しくすることを忘れてはならぬ。

斯くして修養の項目を撰定したならば、之に依つて青年團員の間に或る規約を結ばせるのである。而うして青年團員をして其の規約を極めて嚴重に實行させるのである例へば青年は如何なる場合にも酒を飲まぬとか、煙草を口にせぬとか朝は必ず何時に

起きるとか、又朝起きたならば必ず鎮守の社に參つて拜禮をするとか、毎朝祖先の靈を拜するとか、或は又冬ならば頸巻を用ゐぬとか夏ならば扇を使はぬとか云ふやうな規約を設けて、夫れを必ず勵行させる。而も必ず集團的に勵行させて然うして漸次彼等の克己心——自制力を強くするといふことが、修養に於ては最も大切である。夫れが又自然に彼等の間に剛健の氣風を養ふことになるのである。

此外にまだ指導者の考慮を煩したい事がある。それは趣味といふことである。修養などいふと兎角堅苦しくなりたがるもので青年が之れを實行するに當つては随分苦痛を感じるものの中にはあるのである。尤もこの一種の苦痛を以て青年を訓練するのも必要ではあるが其處が指導者の頭の要る所で、此の苦痛を苦痛とも感せず一種の興味を以て何時とはなしに彼等を修養させて行くには、其の間に趣味といふものを加へて行かなければならぬ。例へば日常の修養の間に、時には山に登るとか、競技會を催すとか運動會を開くとかして、剛健の氣風を養ふ上に於て趣味を持たせる。或は又試作



地の耕作をやらせるとか、副業の競争をせよとか、生産物の共進會をやらせよとか云ふやうな方法を以て農業又は副業の智識を涵養させる上に於て趣味を持たせる、斯うして一方からは趣味を持たせ、他方からは常に修養の意味を加味して行きたいと思ふのである。

要するに修養といふことは、彼等青年の克己心を養成し、精神を訓練すると共に、共同、服従、規律等の、國民として守るべき徳義心を涵養するのが目的なのであるから、何事を爲すに當つても、常に此の目的を達する一つの方便としてやるといふことを心懸くることが必要である。

### 農村青年指導の原則

青年の指導教養と云ふ事は、國の生存問題として是より大切な公共事業は無いと云ふ觀念から、各國競ふて之に努力し、而して其結果今日歐洲の大戦争に於て如何に効

果を示して居るか云ふ事に就ては、諸君に於て既に御納得の事と思ふ。そこで茲に御参考の爲に獨逸普魯西在郷軍人會長ホン、ソング、クイスト大將が千九百十一年の五月に、青年の教育指導に關して獨逸全國の在郷軍人會に配布した檄文の要旨を御紹介したい。殊に近來日本でも此事の大切なることを自覺し、既に内務、文部兩大臣の訓令も出され、各地方共舉つて此事業に御盡力中であるから、今此の檄文の要旨を御紹介したならば、指導上大いに御参考にもならうし、又た近頃疑問とされてゐる在郷軍人會と青年團との關係も自ら御了解になると思ふ。

#### □青年團と協方せよ (檄文の要旨)

吾々の後繼者たる青年の精神及思想が漸次忌むべき傾向を示し浮華輕佻の風が益々青年の氣風を墮落せしむるの狀を呈しつゝある事は、實に國家及び國民の大なる危険である。而かも此危険が日に増大しつゝあるは恐るべき事である。工業の發達するは宜いが、同時に地方農民の多數を都會に吸収し、彼等をして健全なる田園生活を



捨て、身體を剛健ならしむべき農業を放棄せしむるは如何。工場で作業をしたり狭小な區域内に集團して生活する事は、強壯なる國民を作り出すには甚だ不適當である。之を徳育の方面から觀察するならば、工場生活は青年に墮落の機會を與へる許りでなく、長者に對する尊敬心及び謙讓の良風は漸次地を掃ひ、宗教的の觀念其他吾々が古來受継ぎ來つた良習慣は日を逐ふて破壊されて仕舞ふ。此間に於て社會黨は益々其毒爪を逞うして、青年が將來世に立つ場合に最も大切なる徳義心を破壊しやうと努める、之を體育の方面から觀ても彼等の工場内外に於ける運動は其健康を保持するに足らぬばかりでなく、却つて身體を脆弱ならしめるのだ。

此故に我陸海軍當局者は、毎年徴收する壯丁の素質が年を逐ふて悪くなることを認め、大に將來を憂慮して居る。殊に今日では壯丁の在營期限が二年に短縮せられたるに拘らず、是が教育事業は益々多端になり、之に對する要求が却つて控除されなければならぬ必要のある時に、壯丁の素質が悪くなつて行く事は特に憂ふべきことと思ふ

我政府も其危險を認め、既に青年指導法の改善に着手し、又地方の有志家も青年團體を組織して、青年の身心を陶冶向上せしめむことに努めて居るが、是等諸團體は各々特殊の目的を有してゐる爲に其効力がまだ充分に行かぬ。茲に於て是等各種の組合團體を統一し、共同の大目的に向ひ歩調を整へて勇往邁進するの必要を切實に感ずるに至り、政府亦た率先して是が手段を講ずるに至つたことは誠に喜ばしきことである。即ち普魯西の文部大臣は本年一月十二日に青年の指導教育を目的とする各種團體の代表者を召集して、右の大目的を説明して其の歸一する所を知らしめ、又其議決に基いて一月十八日に青年教育に關する訓令を發した。

我が在郷軍人會は、既に數年來進んで青年教育の事業に當つて來た事を誇りとする。即ち我が獨逸帝國在郷軍人會總會に於いて屢々是に關する協議をした。素より在郷軍人會の任務は現役を終つた青年を指導するを以て本旨とするけれども、而かも將來軍務に従ふ者の身體及び精神の健全ならん事を切實に希望して居る者であつて、吾々



が吾々の後繼者たる青年の指導誘掖に盡力しなければならぬことは勿論である。果して然らば如何にしてこれを實行するか。如何にして彼等を統一し、指導するか。是は諸子の大いに知らんと欲する所であらう。文部大臣の訓令に依ると

先づ第一に、青年の教育は各地同一の形式に依つて行ふべきものではない。蓋し各地方の關係は少すや甚だしく異なる所があつて決して共通の法則を以て律し得べきものではない。故に一般の原則と、青年の指導に關する順序を示して青年指導の大本を誤らしめざるに止むれば可なりである。今日現存する各種の青年團體は文部大臣の訓令に依り其從來行ひ來りし努力を破壊せらるゝものでは決してない。唯だ相互に不必要なる競争を行ふが如きは、却つて社會黨をして其間隙に乗せしむるの機會を作りはせぬかと思ふ。大臣の訓令に依ると、是等各團體の共同動作を圓滿ならしめんが爲に縣郡及び町村に於て青年教育委員會を組織して、體操遊戲組合、各宗派青年會、實業補習學校等に關係する人々は其委員となる事になつて居るが、之に對しては在郷軍人會が

らも適任者を選んで委員に加入せしめ、分會長もなるべく之に參與するがよい。

吾々は斯の如く青年教育の切要なることを叫ぶのではあるが、併し、在郷軍人會が新に青年團體を組織したら宜からうと言ふのではない。在郷軍人會が新に青年部を設ける爲に、從來存在する所の各種の團體に破綻を來さしむるが如きことは大に戒めなければならぬ事である。寧ろ青年教育委員會の意圖に従つて在來の青年團體と共同するといふ方法を探ることが望ましいのである。而して此の事業に當る人は、個人の利害關係の如き 國家の大問題の前には進んで之を犠牲に供すると云ふやうな覺悟と精神を有たなければならぬと思ふ。又縣並に郡の在郷軍人會員が、益々注意を加へて實賤躬行、善く縣並に郡の青年教育委員會の事業を援け、而して各地に起る所の紛争誤解を調和解決する事に努力しなければならぬ。また既に青年團體の存在する地方に於ては、在郷軍人會員は先づ第一着手として、義務教育終了後の青年を驅つて此の團體に赴かしむるといふことに努めねばならぬ。是が爲には先づ自己の子弟を此青年團體



に加入せしむることが第一である。夫から延いて他の子弟に及ぼすのである。此等の青年が自ら團體の事業に興味を有するやうに至つたならば、同年輩の青年を誘つて此の青年團體に加入せしむるやうになるのが自然の状態である。

此の際特に此の青年教育に向つて有力なる活動を爲し得るものは、國民教育に職を奉ずる在郷軍人會員である。此の職を奉ずる所の在郷軍人會員は、既に在學中の兒童をして身體の發育を増進するやう運動に興味を持たしめ、その他各種有益なる講演に出場せしむる趣味を養ふことが出来るであらう。今や各學校は文部大臣の訓令に基いて、數十年來存在して居る所の各種の精神教育の外に、體操又は遊戯を授け、又百年餘の歴史を有する體操又は遊戯組合は體操以外に德育を施すことになつた。縱令其の本來の性質上體操若くは德育の一方に偏するやうなことがあるにしても時日の経過と共に教育委員會の適切なる指導に依つて、何等特別の強壓を加ふる事なくして自然に適當なる針路に向つて進むことが出来ようと思ふ。

若し地方の在郷軍人分會にして、幸ひに自分は一つの會場を持つて居るといふやうな場合には、或るべくこれを青年團體に貸して遣つて宜しい。青年の集合する場所によつては、往々にして教育の趣旨に適當しない所もある。また在郷軍人會で講話會を開き、觀兵式を行ひ祝祭を催すと云ふ場合には力めて青年團員を招待して軍人會と青年團との關係を親密ならしむる様にしなければならぬ。尤も在郷軍人會員にして、自ら進んで青年の爲めに講話を爲し、練兵又は體操の教官と成り野外運動の指導者となり、距離測量、地形偵察の法を青年に教へたならば、青年教育の爲に裨益する所決して尠少ではあるまい。諸子大に努力せよ、自分は各地の在郷軍人分會が速に地方の青年教育團體並に指導者と聯絡を取つて、在郷軍人會員が此の青年教育に參與する事に關して能く協議を遂げ、直ちに活動を開始し、以て青年教育の効果を發揚せんことを切望して止まないものである。



右の如き撤文で、これで見ると獨逸在郷軍人會が青年團體に對し如何なる方針を採つて之を教導して居るかといふ事を知ることが出来る。自分も始終在郷軍人會員に對つて、青年團體と共同しなければならぬといふことを常に注意を與へてゐるが、兎に角彼等青年に忠君愛國の精神を注入して、身體を強健にし、剛健にして尙武的の元氣を鼓舞し奮闘的の國民を養成するといふことに就ては、在郷軍人會員として特に努力しなければならぬことと思ふ。そこで獨逸の在郷軍人會が青年團の爲に如何なる協力を爲しつゝあるかと云ふ事の例を擧げると、夏期に於ては體操、遊戯、野外運動或は演習等の實習に對して、又冬期に於ては適當なる會場を青年團に提供し、主として智育徳育の方面の教育を施すに便利を與へて居る。又地方に依つては青年の爲に一の案内所を設けて、職業の撰擇若くは就職の周旋をして遣る。或は各種の契約に關する相談に與つてやる。其の他青年の爲に種々の有益なる事業を起して居る所が澤山ある。

自分は斯う考へる。此の撤文にも書いてあるが、工業の發達と共に農民は段々都會に集まつて來て、農業が衰頹の傾向を呈する事は憂ふべき事で、各國とも大なる注意を拂つて居る所であるが、日本に於ては歐羅巴各國ほど其の弊害が甚しくはないけれども、漸次其の傾向を呈しつゝあると云ふことは争ふべからざる事實である。之れは獨り農民が都會生活を段々好むやうになる爲めに農業者が減少し、延いて農業が衰へるといふ計りでなく、此の爲めに漸次農民が質素勤勉の美風を失つて、都會の浮華輕佻の氣風に感染し、矯奢に傾き、段々奢りに増長すると云ふことになるのは國家の爲め憂ふべき事である。今日世間の問題になつて居る農業衰頹といふことは、如何にして之れを挽回すべきか、如何にして振興すべきか、其の方法は多々あるであらうが第一は今日の農民が衣食住に奢るといふ傾向のあるのを矯正するのが何より大事である。素より農村の改良進歩を圖り、若くは耕作地の面積を増加する手段を講ずるとか副業の途を考究して生産力を増加するといふことも必要であるといふことは今更喋々



を要せぬ處であるが、然しながら最も適切にして且つ効果のあるのは、農民が安逸を貪り矯奢華美の風に感染する事を防ぎ、質素勤儉にして勤勞を惜まぬと云ふ氣風を養成するのが、是が即ち奮闘的の國民を造り、彼等の身體を強壯にし意氣を剛健ならしむる所以である。農村の青年團體を指導する上に於いて注意すべき點もこゝにある。是即ち日本の青年指導に關する普遍的の原則であると思ふ。

### 青年團の實際的修養

青年教育のことは、全國到處非常な勢で進んで居る。青年團の發展は、頗る顯著な事實となつた。之れは實に慶賀すべきことであると思ふ。然し兎角日本人のすることには、冷熱が劇しく困るが、此の青年團のことも、一時の熱で急に冷める様なものでは實に其の効果が薄いのである。願はくは、流行的のものとなせず、何處迄も、確かりした根底のある、徹底的のものとしたいのである。

余は青年指導の任にある人に希望するが、青年の修養を具體的に、事實的に行つて貰ひたい。即ち事實に接觸せしめて、青年を事實で練り、事實で鍛えて貰ひたい。修養なるものは鍛練であり、訓練である。一般的な事や、抽象的の事を吹き込んで、眞の鍛練にはならない。現在其の地方に必要である所の事實を捉えて、青年を練つてゆくのである。青年指導の要は是にあると思ふ。

如何に立派な講演會を度々開いても、事實に接觸した修養を怠つては、其の青年團は、決して眞の價値あるものとはならない。近頃何れの青年團でも、講演會が盛んに開かれる。競ふて名士を招待する。之れは寔に結構なことである。が然し、之れに聊か競争の傾きがあり、銜ふやうな點があり、甲村で彼れ丈けの名士の講演があつたら、乙村では彼れ以上の有名な人を招待せねばならぬといふやうな、甚だ愚な競争が行はれて居る様に見えるが、斯ういふ風に外形の見えを張る様な青年團では、甚だ心細いのである。講演を聴いて大いに智識を廣め、教訓を得るのは至極宜しいが、之れ



が流行となり無益な競争となり、衒ひとなるの傾向は、一の弊害である。斯ういふ外形の事よりも、青年團の實質といふことに着眼して貰ひたいのである。

事實的の修養、其の方法は幾等でもあらう。例を云へば、體育の如き、之れは今の日本國民に取つては非常に大事なことであるが、講義や議論では何の役にも立たぬ、實際に鍛えるより外はない。相撲なり、擊劍なり、山野の跋涉なり、盛んに行らせるのである。而して實際にその青年團に惹かれた青年がないやうにしなければ駄目である。共同心の練習も非常に必要である。之れも講義では効果が乏しい。實際に共同的事を行はせ、共同心の盛んに起るやうに導き、共同の障害となるやうな傾向を矯正して、事實を以て鍛えるのである。其れでなければ、根底のある共同心の修養は出来るものでない。服従の公德心、之も國民の訓練に極めて肝要なことであるが、事實によつてなければ練習の出来るものでない。其他規則正しき規律的の習慣を養ふにも、約束を嚴守させ、時間を違はぬやうにさせ、記帳を正しく行はせ種々事實を以て練て

行かねば、唯口や文字で其の目的は達せられない。數理的に物を考へるやうにすることも、今日の青年には必要な修養である。之れも矢張り事實による修養でなくては効果がない。

指導者の青年修養の中心點を、事實的、實際的の修養に置いて貰ひたい。尙ほ進んで此の事實的修養の事を言つてみれば——農民をして節約を守らせることが大事であり、節約が農民經濟の生命であるといふことを知らしめ、之れを眞に徹底的に行はしむるには、農村青年の節約力を事實によりて鍛えるのである。ドシドシ奨勵して働かせる、奢侈の風を戒める、儉約をさせる、貯蓄をさせる、貯蓄を殖やさせる、而うして大いに經濟の觀念を養つて行く、今のやうな豊年で米價が高く、世間の景氣のよい時に、十分に儉素の風が行はれるやうにして、世の中の軽い調子に動かされず、確かにして締のある生活をさせることは、青年一身の處世上から云つても、農村の發展の上から云つても、非常に緊要な事と思ふ。新奇を競ふのは、今日一般の傾向の様に見



えるが、是に大なる危険がある。此の點は大に戒めて、着實儉素の氣風を青年の間に作るの努力は、刻下指導者にとつて最も急務であると思ふのである。然し誤解してはいかぬ、餘は決して消極な、頑迷な氣風を養成せよといふのではない。青年は何處迄も進歩的にして元氣激測たるものがなければならぬ。積極的進歩的にして大に元氣あり、而して眞面目にして着實たる青年、之れが時勢の要求する青年である。新奇を競ふが如き浮いた調子は、飽迄も排除すべきものである。

現今我國民の品位の上から云つて甚だ耻づ可きこと、國勢發展の上から云つて、甚だ憂ふべき事は、商業道德の腐敗である。商人が信義を守らない、粗製濫造の悪品を以て、殆んど詐偽的の商賣をする。外國貿易の如きは、之れが爲に、非常に發展の障害をされて居る。之れは今現に商業に従事して居るものに向つて、幾等その弊害の矯正を叫んでも、其の効果は頗る薄い。此の商業道德も、是非共之れを青年から鍛え上げて行かねば駄目である。先づ第一青年を誠實ならしむる必要がある。之も事實に就

て青年の仕事が、何處迄も眞面目にして、誠實である様に導いて行きたいのである。誠實は信用となり、信用は商賣を發展せしむる事は云ふまでもない。俄に信用を得たいと焦慮つても無益なことであつて、信用は誠實からなくては來ない。而して虚偽の多い世の中にあつて誠實に仕事をするといふことは訓練を要する。此の訓練が青年團にとつて根本的に大切な事である。

要するに青年團の指導者は、國家の見地からして青年を如何に訓練すべきか、社會といふ立場から見ても訓練をいかにすべきか、地方の必要上、青年團を如何に導くべきか、青年を如何に訓練すべきか、青年一個の爲に如何なる修養をなさしむべきか、此等の點をよく考慮して、而して、事實によつて徹底的の訓練をして貰ひたい。

青年團と軍事豫備教育

私は教育家と言はず、實業家と言はず、將た軍人と言はず、總て剛健なる國民を造



るといふことが、今日國家の生存問題と思ふてゐる。私が軍服を着て居る手前からも、亦是非剛健なる國民を造らなかつたならば、吾々の望むものを將來に於て、達し得ぬのである。と斯ふ考へて居るのである。

私は第一に青年の指導教育といふことが、國家の生存問題である、而して之に努力した効果は、今日の歐羅巴の戦争の状態に於て、歴然と吾々にその効果を示してゐること、而して之以外に殊に建國の基礎から、尙又國民の性格から、我々と根本的に違ふ亞米利加が、今日如何なる状況になつて居るかといふことを講して置きたい。

青年教育に就き、露西亞、佛蘭西、獨逸、英吉利など云ふ、今日戰場に於て鎗を削つて居る國家が、如何なる状態に、今日まで努力して居たかといふことは、私が茲で細かく申さぬとも、御承知の事と思ふ、その概要のことは、私が會て『社會的國民教育』といふ小冊子を拵へて、諸君に紹介をしたことがあるから、細かいことは省いて概略述べて見やう。

露西亞は日露戦争後、其の敗戦の原因は國民の墮落にありと考へ、「復讐」に詞を藉りて國民を刺撃し、青年の教育指導に力を盡し、大英斷を以て十萬留の歳入を抛ちウオツカ飲用を絶對的に禁止し、昨今大いに覺醒して來たと言はれてをつた。併しまだ眞に覺醒してをらなかつたと見へ、大正六年二月大革命勃發後露西亞は麻の如くに亂れ遂に昔日の強國の面影を失ふに至つた。

佛蘭西の如きは恐らく歐米各國に較べて、此の國くらゐ青年の指導教育に努力してゐる國はないと思ふ從來愛國心の旺盛なる、犠牲の觀念の厚いといふのが佛人の特性であつた。然るに國民性は只今では兎もするご個人主義に傾いて、愛國心は減つたやうだし、犠牲の觀念も薄くなつて、復昔日の特性が見られなくなつたらしい。併し青年を教養した結果は空しからず、大いて獨逸に向つて攻勢を執りつゝあるのである。英吉利に至つては、自由主義から醒めて、共同的愛國な國民性を造るべく、少年斥候隊を組織したけれども、由來個人の利益を本領とした工業は、軍需品製造に適當せ



ず、其處でロイドデオヂの苦心で、工業同盟をなし今日の製造力が出た、國家の大事に一身を犠牲とする觀念を持たしむることが矢張り英國の急務である。

英吉利の中流以上の人は、實に自負心の厚い、謹嚴な愛國心の盛んな、是は又中流以上の國民としては他の國にはない、所謂紳士階級の人は立派な者である、併しそれ以外の者といふものは、稍此の氣風が劣つて居る。幾分個人主義過ぎはすまいかと思はれる、實際彼等も言ふて居る、彼等の内に間々危急存亡の此際に當つて、一身を國家の犠牲に供すると云ふことを嫌ふものもあるらしいが事實かどうか、英國海軍の生命否英吉利の生命たる石炭の坑夫が同盟罷工をした事は耳にした、兎に角斯う云ふ有様である。

又伊太利に至つては、所謂歐羅巴の社會主義の巢窟たりといはれるやうな國柄である、其の國の軍隊が今日戦争するといふことは珍らしいが而し出來まい、所謂軍隊の指導をするといふことは、なかく六ヶしいことであらう。

獨逸は如何、國を立つる始めから、國の仕組は時計のやうにしなければならぬ、組織的、統一的で、而も奮闘的、攻勢的にする、斯くちりちりと造り上げたのであるから、打算に精しく、計畫が綿密だ、獨逸魂を練る爲に、青年教養に最も力を用ゆる、特に體力に注意して居る、六七年前までは、青年團が此の精神を以て思ひ／＼に發達して來たのを、茲で勅令で統一することにした。

獨佛英共平素から青年の指導教育といふことを疎かにせぬ、其の努力の効果は、今日の戦争の状態にあり／＼と現されてゐる、即ち彼の東方戰場では一間の間に獨逸側は三人づつ、露西亞は四人半づつ、三百里に亘つてをつた。西方戰場では獨逸は四人、聯合軍は六人、又死傷者では聯合側で九百三十六萬、獨逸側は六百餘萬、捕虜は聯合國側が三百餘萬、獨逸側が百六十萬、といふ大袈裟な國民戦争である。

此に於てか將來の戦争は、決して軍隊の戦争ではない、國の運命は軍隊が争ふのではない、國民の總ての體力、財力、腦力を傾け盡して争ふのが、即ち將來の戦争であ



る、國民が強くなつてはならぬ、工業も武器、農業も武器、總て國の需要品は、悉く是れ國の武力であると、斯う解釋せねばならぬ。

戦争になつてから獨逸は、青年團を文部省の手から離して、陸軍大臣の管轄下に立てた、各町村に青年中隊を造つて居る、而して戦線後で病者の運搬病院又は郵便勤務の補助、交通機關の助手などに使つて、今では戦線近くまで行つて居る。

日本はどうか、此處で踏切つて日本は日本で立つ、自國の本領を發揮せねばならぬ。歐洲戦後に歐羅巴へは屹度非國家的の思想が起る、日本は之を受入れぬやうに感染せぬやうに、今日から大なる準備と覺悟が要る、青年指導の上に丹田に力を込めなければならぬ大事な所は此處である。

日本は隣邦支那を背負つて立たねばならぬ、是も將來大覺悟を要する所だ、亞米利加は大學中學から女子に至まで軍隊教育だ、併し日本は軍事豫備教育はいらぬ、協同心、組織的觀念、剛健で奮闘的意氣、嚴格な規律に服従する精神、眞個に徹底的に

片ツばしから實行して行くやうにしたら宜しいのであると思ふ。

### 農村振興に就て分會員諸君に告ぐ

地方官の在郷軍人に對する所感は前に述べた如くで、分會の存在も認め、漸次發達しつゝある事實をも認めはするけれども、是は眞に地方に於ける中心的勢力なり、地方改良の先導者であると云ふ時機には達して居らぬ。まだ大分距離がある。遠慮なく言ふならば、地方の改良と云ふやうな重要問題に對しては殆んど没交渉であると云ふても必ずしも過言でない。斯かる有様では折角分會に對して多大の期待を持つて居たことが殆んど一場の空頼みとなつて、甚だ失望せざるを得ない。地方官としては、良兵即ち良民の主義によりて、地方の惡風を矯正し、大に勤儉尙武の美風を鼓吹し、在郷軍人を中心として地方改良の實を挙げたいと期待して居るのに、肝腎な在郷軍人に其抱負と確信とが缺けて居るやうに思はれる。是が先づ在郷軍人分會に對する地方官



の所感の大要である。

これは自身親しく地方に在住しての觀察であるから、我々が大に敬聽すべきことであるが、若しも分會が單に形を具へ、規約に示された事業を形式的に行ふと云ふだけで、眞個に郷黨の中堅たる實なく、地方の改良と没交渉であるならば、分會設立の趣旨は未だ徹底して居ないのである。分會の精神が實現されて居ないのである。分會員たるものは更に一段の努力を要する。

今や我國の農村は非常に疲憊して居る。如何にして此の疲憊せる農村を振興すべきかといふことは現下朝野の一大問題となつて居る。我國の如く古來農業を重んずる國では農村の疲憊は直ちに國運消長の問題である。元來農村の問題は我國ばかりでなく、英國等でも大問題となつて居る。英國の商工業の發達は非常に盛んであるけれども、田園は甚だ荒廢して、一週間輸入が杜絶すれば、英國民は餓死に瀕すると云ふ状態である。之れ獨り商工業にのみ重きを置いて農を輕んじた結果にして、今や此農村

の振興策に就いて深く憂慮されて居るのである。反之、獨逸は商工業と共に農業も盛んである。是れ彼が今日ある所以であらう。斯様に重要な問題が眼前に横つて居る時に、苟くも地方に於て何事か爲さんと欲すれば立派に活動し得べき團體として認めらるゝ在郷軍人分會が、何等爲す所なく打ち過すと云ふことは誠に以て相濟まぬ次第である。

今試みに我國内地の總戸數を見るに、實に九百五十萬九千三百四十六戸（大正三年調）にして、其内五百四十四萬二千二百九十二戸（同上）は農家である。即ち農家は全國總戸數の半數以上を占めて居る。此國民の多數を占めて居る所の農家が衰頹して約十二億といふ巨額の負債を有し、而かも之を償却するの見込みが立たず、漸次窮境に陥りつゝあるといふことは、實に焦眉の問題ではないか。又我國の農村は、中産の者が漸次減少して大地主と小作人どが増加しつゝある。此の中等農民が即ち農村の中堅たるべきものであるのに、其の中堅がなくなるといふのが又實に農村にとりて死



活の問題である。而して在郷軍人諸君は、かゝる實際上の大問題に對して、果してそれ程痛切に感じて居られるであらうか。

農村が今日の様に疲憊するのは種々の原因があらうが、就中奢侈贅澤の風が農村一般に蔓延したのが重なる原因であらう。剛健質朴、孜孜として家業に精勵し、飽くまで質素勤勉なのが古來我が農村の美風であり、且つ之が富強の原因を爲して今日迄發達した所以である。然るに世の中の變遷に伴れて都會の惡風が地方に侵潤し、贅澤品を好み遊樂に耽るやうになり、剛健質實なる農村の美風特色は次第に打ち壊されて、遂に今日の如き状態に陥つたのであると思ふ。元來人が一身を處し一家を治むるに就て忘れてならぬことは、入るを量つて、出るを制するといふことである。即ち一定の收入を考へて、其の收入の範圍に於て、之に相當するだけの生活を營むことである。この原則を忘れて分不相應の奢りを爲せば直ちに負債が生ずるのは極めて明白である。奢侈は貯蓄の反對であつて、奢侈に流るれば一方に於て浪費を爲すと共に、一方に於

ては家業を怠けるから收入を減ずることになり、兩方より蒙る損失は大なるものである。中産者が倒れるのも、矢張り奢侈に流れて分不相應の生活を爲す爲に田畑を擔保として負債を起し、遂に之を回復することが出來ず資本家の手に取られて仕舞ひ、かくして中産者の減少を見るに至るのである。斯様の譯であるから農村に奢侈の風が盛になれば、其農村が衰頹するのは自明の理である。従つて之が振興を圖るには先づこの奢侈の風を矯正するにある。之を矯正するには先づ質素勤儉の美風を鼓吹奨勵するより急なるはない。之には在郷軍人が最も適任であらう。又在郷軍人が當然自ら進んで膺るべき筋合ではあるまいか。假令ば奉公袋の如きことを實行するのは、勤儉の美風を鼓吹するに最も適切なる方法である。一旦緩急ある場合を顧慮して、平生より準備をして置くことは誠に緊要なことで、これこそ即ち軍人精神の發揚である。昔の武士が、如何に零落しても鎧櫃の底にはイザ鎌倉といふ場合の爲に、若干の用意を忘れなかつたことも矢張り同じ精神である。是は常に軍人ばかりではない。汎く一般に奉



公袋の趣旨を普及せしめ特に軍人のみに必要なるもののみを除いて、之が實行を鼓吹すれば、取りも直さずそれが貯蓄の奨励となるのである。即ち國民一般に貯蓄心を養成せしむるの趣旨を以て、奉公袋の普及實行を計るのは、此の農村振興に對する最も手近にして適切なる方法と信ずる。

更に一方から見れば、我農村に於ては過剩勞力が餘りに過大である。即ち耕地の面積に較べて働く力が剩る、其剩る度合が餘りに多過ぎる。言ひ換れば十二分に働く丈の耕地がなく、勞力の方が澤山に剩つて居る。大正三年度の調査に依れば農家の總戸數五百四十四萬八千二百九十二戸に對し、耕地の總面積は五百八十一萬五千八百七十七町歩にして、一戸に付き一町餘歩の割合である。此過剩勞力の多過ぎるといふことが又農村疲憊の一原因を爲して居るのである。それ故に此の過剩勞力を有益に活用する方法を講ずることが急務である、耕地整理等に依りて耕地面積を擴大することなども素より必要であるが、此事は當局に於て着々實行されて居ることであるか

ら暫く之を措き、先づ第一の急務は耕作物の改良、増收を圖るにある。従來我國の農家は餘りに習慣的に流れて居る。因襲に囚はれて改良進歩を圖るの念慮が乏しいやうである。然るに土地の面積には自ら限りがあつて、耕地の開拓のみに依頼することは出来ぬ。必ずや耕作物の改良によりて收穫の増加を圖らねばならぬ。是を爲すには各人が先づ農業其他一般産業に關する智識を養ひ、此智識を活用して耕作物の改良増收に資するといふことにならねばならぬ。

又過剩勞力を活用すべき他の方法は副業の奨励である。我國では副業といふことがまだ能く普及されて居ないが、この多大なる過剩勞力を此の方面に活用するならば、全體より生ずる収益は蓋し頗る大なるものがあらう。但し如何なる種類の副業を選ぶべきか、其方法は如何であるかといふやうなことに就ては、目下調査研究中であるから、何れ之れが出来たならば、戰友紙上なり或は小冊子として諸君の參考に供する善である。



以上は農村疲憊の原因と、之が振興に就いて採るべき方法の一斑を述べたのであるが、卒先して之が實行に膺るべき適任者は、其組織的なる點よりして、在郷軍人分會が最も適任ではあるまいか。繰り返して言ふが、農村問題は最も重大にして急を要する國家的問題である。斯る大切な事柄に對して何等の感じもなく、恰も對岸の火災を視るが如き態度ではならぬではないか。平時にありては忠良の臣民たれど仰せられたる御言葉を諸君は何と聞かれたか。忠良の臣民たるの實を擧ぐるには右に述べた事柄を奮つて實行するにある。分會長諸君は能く郡長や町村長の方々と相談して、是等の實行に關する案を立て、分會員をして協同一致、能く其案に則つて實行せしむるやうに勉められなければならぬ。斯くて分會が地方改良、農村振興の先驅となり模範的實行者となりて初めて地方に於ける中心的勢力たるの實が擧がるのである。國家的團體としての分會の價値が發揮されるのである。畏き 聖旨に答へ奉ることか出来るのである。

### 極東の大危機

世界の大勢は、我日本を刻一刻困難な地位に導きつゝある。此際大いに國民の覺醒を要するといふことは、私も口が酸くなる程云ひ續けて來たが、扱て諸君、此頃の露西亞の状態を見ては一層切實に我が國民の責任の重大なることを感じさせられるではないか。今日の露西亞は、最早國としての威力も權威もない。其の或る一派が敵國に使噓せられて勝手に休戦して居るかと思へば、軍隊は軍隊で敵國の軍隊と手を握り、今は獨逸と露西亞との間に一日一回宛打合せの爲に特別列車が運轉されて居ると云ふ有様である。而かも敵に國を賣らんとする一派の輩は無智文盲なる多數の國民に向つて、貴族や富豪や乃至は舊皇室の土地財産を悉く沒收して、之を無償で分配してやると云ふやうな、極端な社會共產主義の甘言を以て誘惑したから、理解力の無い國民は、さなきだに倦々して居る所だから、忽ち此の甘言に騙されてまるで酒に酔つた



様になつて仕舞つた。戦争開始以來約六百億圓の金を費ひ、四百萬に近い貴重な人命を犠牲にし、二十七萬の俘虜を敵に委ね、其上國土を散々に蹂躪せられて、尙ほ之を恥ともせず、却つて自分の國に熨斗を付けて差し出さうとするに到つては、最早露西亞も頼みとする譯には行かぬ。もう斯うなつたら歐洲戦争ではない、獨逸と日本と鼻を突き合せる許りである。現に西伯利亞には獨逸の俘虜が二十萬も居る。是と露西亞の過激派とが相結んで、此二十萬の獨兵に兵器が渡つたから直ちに日本に危害が及ぶことになつたのである。さうして西比利亞の一部は、過激派の手中に歸したではないか。又此の間は日本と露都との通信が一週間も杜絶した、其譯を聞くと嘘か眞か獨逸の俘虜と過激派と共同して電線を切斷したのだと云つて居る。諸君、戦争の火は愈々日本に近づいて來た。聯合國の一人であり乍ら、懐る手で金を儲けて腹鼓を打つてばかりは居られぬ。火が付いてから氣が付いたのでは間に合はぬ。不意に頭を叩かれてから飛び上つても既に遅い。そんな事で日本の運命を發展させる等とは思も寄らぬことである。

一體露西亞は何故に斯かる状態に陥つたか。迦れば因縁は極めて深い、畢竟國民精神の鍛鍊を怠り、國民を教育指導することを爲さずして、寧ろ之を無智文盲に導き之を奴隸的に扱つて來た結果である。露西亞の人口は一億八千萬あるが、其の八十%は全く目に一丁字無き國民であると聞いては驚くの外はない。殊に不思議なのは今や露西亞の國民が食物に窮して來たといふことでめる。元來露西亞は有名な農産國で、生産額の四分の一は外國に輸出し残りの四分の三で充分生活して來た、縱令開戦以來農夫が出征して減たとしても食物は餘る譯であるのに、足らぬとは奇怪な話である。是も詮じつめて見ると、國民に共同心がなく、農民が農産物を陰匿して出さぬと云ふこともあるが、それよりも大なる原因は、鐵道の從業員が我儘で、農産物が配當されぬからである。露西亞の鐵道從業員の始末に了へぬことは次の話でも分る。露西亞の鐵道収入は一年十五億留であるが、之に對して從業員は無暗に同盟罷工をやる爲に



俸給が段々せり上つて三十六億留になつて居る。其上に彼等の働く時間は戦争前に比べると半分になつて居る。單に鐵道許りではない、總てが此の調子で、地方には總督も知事もなく、治民に經驗なく學問も無い五六人の委員なるものが、州縣の政治を執つて居る。軍隊の方で云ふと莫斯科の軍監區の總督は一人の兵卒に過ぎない、又露西亞全軍を指揮する總司令官は前露西亞皇帝から今は一少尉補に移つて居る。無論軍隊に規律も秩序もあらう筈がない。兵は皆勝手に鐵砲を擔いで家へ歸つて行くといふ有様である。これが一億八千萬の人口を有する大國の状態なのだから、誠に憐れと云ふも愚かな話である。斯うして見ると今日の戦争が、兵器彈藥の戦争から、物質の競争に移り、人口の多寡の競争に移り、遂に國民性の競争に歸着したことが分る。即ち國民性に缺陷のある國は斯の如き腐敗の状態に陥つて、遂に救ふべからざる淵の中に沈んで仕舞ふより外はないのである。大いに戒めなければならぬのではないか。

願みれば露西亞ばかりではない、伊太利も段々不利な状態に陥つて來た。是れ應て

聯合國全般に大なる影響を及ぼす憂ふべき状態なのである。伊太利の軍隊の或る一部は殆んど國家といふことを忘れ、國の運命を破壊するやうな考へを抱いて居つた。獨逸軍はその憐むべき軍隊が伊太利軍戦線の何處邊に配置されてあるかを偵知したので一番先きに其の部分に大打撃を加へたから溜らぬ。殆んど大河の決するが如き勢で彼の難攻不落と云はれた戦線が破れた。其の結果は何うであるか、六十二個師團の内二十八個師團は消滅に歸し火砲二千五百門を敵に奪はれて仕舞つたのである。而も二十八個師團の消滅は、戦線で死傷したのではなく、大部分は逃走したのである。其後司令官から、逃走しても自首して出れば宥す、自首せぬものは軍律に照し見付け次第射殺するといふ嚴命を下したので、此頃は國內自首して出る者が陸續相繼いで停車場に一杯になつて居る、或る一聯隊區に於ては自首者が二萬人にも達したといふことである。六十八個師團の内二十八個師團と云へば、略ぼ半分に近い數である。それが一戦にも及ばずして何處かへ消えて仕舞ふとは何事であるか。殆んど我々日本人の想像



にも及ばぬ話ではないか。最近伊太利が國土の一部を敵手に委するの大失態を演じた大なる原因は、即ち今云つた一部軍隊士氣の弛廢に歸するのである。國民性の缺陷の因つて來る所實に恐るべきではないか。

それに就ても美しきは我等の僚國佛蘭西の状態である。佛蘭西の男子千九百萬の三割五分は既に戦線に出て、其内三百七十萬は死傷して居る。それでも猶立派に踏み堪へて、殆んど聯合軍の中心になつて奮闘してゐるばかりでなく遠く伊太利に迄も赴いて、其の失敗を彌縫して居るではないか。人口が少く兵が少くても國民の精神が緊張して居れば、あれ丈の働きが出来るのである。諸君、彼の露西亞がよい手本である。此の佛蘭西がよい手本である。此の痛切なる實例を見ても、尙ほ日本國民の將來を思ふの念が浮ばぬのであらうか。吾々は實に血涙を揮つて諸君に訴へるのである。諸君、今日の日本の状態は何うであるか、彼の悲痛慘澹たる歐洲戦争を見ても、恰も之を對岸の火災視して長夜の夢を貪つて居るではないか、國民の精神は毫も緊張して

は居らぬではないか、緊張どころではない漸次弛廢する傾向さへ見えるではないか。今日は既に議論の時ではない。現實に斯かる勢ひに進んで來て居るのである。覺醒せよ。緊張せよ。青年先づ覺醒し緊張して、警鐘を打鳴らし太鼓を打ち叩き、國民を長夜の惰眠から打ち醒すべしである。國民殊に青年の精神緊張せしめて、何で國家の發展を期し得られやうか。乃ち青年指導者の責任も此にある。指導者諸君の大努力に俟つ所も此にあるのである。

### 攻勢的精神を發揮せよ

日本程幸福な國はない。外國と兵を交ふること二回、而もこの二回乍ら、見事に勝利を博した。所がこの戦争で國債も可成り嵩まつたのであるが、之れを償却することに就き、種々苦心してゐる間に今度の歐洲大戦争が起り、知らず識らずの間に、我國の經濟状態が豊かになつた。即ち日本は今日濡手で粟を掴んでゐる状態である。之



れを思ふと、日本は實に天祐の國である。けれどもかゝる状態が、果して何時まで續くであらうか。何時でも柳の下に鱒が居ると思ふてよいものであらうか。或は仕合せばかり續くといふことが、何時かは不幸が来る原因になりはすまいか。今に於て、此の不幸を未然に防ぐことは日本の今日に於て、最も大切なことではなからうか。夫れには一體どうすればよいのか。凡て此等の諸問題を解決するものは、唯青年の訓育其の宜しきを得ると、否とにあるのである。この大事業の發達如何といふことが、我國運に最も多くの關係を持つて居るのである。然るにこの大事業を成功せしむると云ふ上に於て、今日の日本國民は、其の熱心の度が、他國に比して、聊か冷淡に失して居ないであらうか。固より彼等交戰國民は、其戰爭の惨状を目撃して居るから、從つて此等の觀念も一入鋭敏に働いて居るでもあらうが、しかし他の一面から云ふと、戰爭の状況を直接見ることに出来ない日本こそは、彼等以上にこの大事業を完成する爲め全身全霊を傾注する必要があるのではなからうか。

積極的精神の旺盛なる國民

小五以上 平時の戰爭に打勝つことの出来ない國は、戰時の戰爭に打ち勝つことも出来ない。平時の戰爭即ち經濟方面は勿論、其他百般の文明事業に於て、他の國民と競争し、之大にもこれに打ち勝つことの出来ない國は、戰時の戰爭に於て勝利を占むることが出来ないことである。確に今次の戰爭に於て證明されて居る。今日の戰爭は準備の戰爭である。他日本當の戰爭が殺到し來る時に、之に打勝つことの出来る唯一の方法は、唯人間を造ることである、それには青年團の事業が最も深き關係のあることを、繰り返し申上げて置きたい。

時優越

棚から牡丹餅の落ちてくるのを俟つて居る國民は亡國の民である。進んで機會を捕

地歩を

へるといふ攻勢的國民であらねば、今後世界に覇を稱へることが出来ない。攻撃的、積極的精神の旺盛な國民は、小の力を以て大に當ることも出来る。平時にも戰時にも、

世界に

優越の地歩を世界に占むることが出来るのである。試みにあれだけの澤山の兵を有つ

むる事が居る露西亞と、之に對抗して居る獨逸の状態とを比較し來れば、多くの説明を費す



迄もなく、這個の事實を了解することが出来る。軍隊は國民の影である。民強くしてその兵始めて強し。所謂富國強兵は、唯だ國民の力が外に表はれた現象に外ならぬ。國民が強くなる。國民が戰をする。今後はこの二大旗章を掲げて日本國を世界の表に大ならしめねばならぬ。唯だ夫れには青年團をして積極的精神の塊とならしむることである。

私が先程から世界の交戦國といふことを申したが、それは歐羅巴、及亞米利加をも含んでゐると御承知を願つて置きたい。又直接に戰爭をして居る各國の國民が、如何なる悲惨な状態にあるかに就き統計的に數字を擧げて、諸君の御參考に供して置きたいと思ふ。日露戰爭は随分大戰爭であつたと稱せられ、今回の戰爭以前迄は、各國共この日露戰爭の状況を研究して、戰術の教訓になつて居たのであるが、此の日露戰爭當時の兵力は、日本が十九師團で、最も大きな奉天戰爭の時にも、露國の出兵總數は二十五師團であつた、そしてこの奉天戰に於ける戰鬪線の最も長い時が三十五里程

であつた。所が今回は到底その比較ではない。東の方即ち露西亞及び羅馬尼の方面に於ける聯合軍側の兵力は、百六十三師團、同盟軍側のは百三十二師團である。而してその戰鬪線は凡そ四百二十里に亘つて居る。日露戰爭の三十五里と云へば先づ東京から沼津邊りまで、今の東方の戰線は、青森から下關に至る長さで御考へになつたらいよいよ其間敵味方互いに一面の塹壕を掘つて相争ふてゐるのである。更に西方即ち英佛聯合軍と獨逸と争ふて居る方面は、聯合軍側の兵力が百八十九師團、獨逸軍側のは百四十九師團で、その戰鬪線の長さは百七十里である。是は東京から岡山邊迄の長さである。それから南の方伊太利と埃太利の方面は、伊太利が六十九師團、埃太利が三十六師團で、此の戰線の長さが百一十一里である。其外メソポタミアの方面は土耳其軍が二十五師團、露西亞軍が二十一師團、サロニカの方面は聯合軍が二十六師團、同盟軍が二十二師團、斯うゆふ有様である。之を日露戰爭當時の日本が十九師團、露西亞が二十五師團で、而もそれを近代の大戰爭なりとして、日本人が膽を冷したことに比



較し來らば、聊か耻ぢざるを得ないことになる。夫れから更に兵員の數から云ふと、聯合軍——亞米利加を除き、日本を加ふ——側の男子の人口は一億六千萬で、其五分の一即ち三千三百萬人が戦線に立つて居る。同盟側の方には男子の人口が七千五百萬で其の三分の一即ち二千四百萬人が、直接戦闘をして居る譯である。更に死傷者は聯合軍の方が、一千五百二十萬人で、同盟軍の方が九百三十萬人に達して居る。即ち聯合軍の損害はその十分の一、同盟軍のが八分の一である。そして敵味方兩方が初めから召集した總兵數は實に五千七百萬人に達して居る。丁度日本内地の總ての人間が一人も残らず悉く出てをつて、日本内地は丸で人間の臭ひもしない、空になつたのと同様である。

所で今日まで交戦國の青年が、戦場に出てをる割合から將來を推算すると、同盟軍では十七歳の者を悉く召集するとすれば、少くとも人員の補充の點から云へば、戦争は尙ほ約一ヶ年は續き得られるであらうと思はれる。又佛蘭西に於ても、殆んど之

れと同様の推斷が出来る、然り而して日露戦争の時に日本が費した戦費は約二十億圓であるが、今日までの歐羅巴の戦費は雙方合して千五百六十七億圓といふ巨額に達して居る。其中で聯合軍側が、千六十九億圓で、同盟側が四百九十億圓である。倍て然らば一日の戦費はどれだけかといふに、雙方で一日に無慮二億二千萬圓で、内一億三千三百六十萬圓が聯合軍側の一日の戦費、残り六千六百四十萬圓が同盟側の戦費となつてをる。随分莫大な金である。僅に二十億の金で頭痛鉢巻をした日本人の頭などで、一寸想像がつきにくい程の金である。

眼を轉じて海の方を見ると、近來各國の船が頻々と獨逸の潜航艇の爲に撃沈されてゐるが、一體世界に於て百噸以上の船が、どれ程あるかといふに、噸數にして約六千萬噸はある。其内聯合國側の船は、約二千八百二十萬噸、同盟國側の船が六百六十萬噸、亞米利加を入れれば聯合側は更に一千五百萬噸は増す。而して獨逸が海上封鎖をする當時迄に、撃沈された船が四百八十萬噸である。潜水艇の封鎖以來 撃沈された



るものは二月の月丈で（中立國も聯合國も入れて）七十八萬千五百噸、三月の月に八十六萬一千噸、即ち二月三月の二ヶ月で百六十四萬二千五百噸、丁度日本の百噸以上の船舶が悉く撃沈されたと見れば、大略想像がつくことと思ふ。尙中立國が此の戦争の爲に迷惑を蒙り、所謂傍杖を食つて、撃沈された船が六百四十四萬二千噸といふ數に上つて居た。英吉利は今日迄約二千萬噸の商船を持つて居たが、其内で既に四百萬噸を撃沈された。所が英吉利の造船力はと見ると、近頃は一ヶ月約十五萬噸であるといふから、此の造船力と、撃沈された數とを勘定してみると、英吉利は獨逸の潜航艇の爲に他國の思ふ程左様に苦しんで居ないと言へば言ひ得るのである。尤も獨逸の方では斯ふゆふことを言つてをる。英吉利の總ての食料品其の他のものは、約十分の四といふものを外國から仰いで居る。而して其大部分は亞米利加から來る。所か其亞米利加が段々不作の狀況になつたので、今度は濠洲から輸入してゐる。けれども濠洲は亞米利加に比べると英吉利から約三倍の距離に在る。此計算を基礎にすれば獨逸

は潜航艇を以て英吉利を困危の裡に陥れることが出來ると。是れ即ち獨逸が潜航艇戦を開始して、暴威を揮ふに至つた所以である。

以上の數字によつて見るも、今日の交戦各國の狀態が如何に悲痛慘澹であるかを想像することが出來るであらう。若し斯る狀態で、武運拙く敗北するが如きことがあつたならば、其敗北した國は立國の基礎を全く破壊されるのである。故に石に嚙りついても此の戦許りは負けることが出來ぬ。負ることが出來ないものとすれば、勝つべき方法を講じなくてはならぬ。夫れが各國今日の大問題である。日本に於ても同様に、夫れが刻下の大問題である。如何にして此の大問題を解決すべきか。是れ蓋し抱負あり、自信ある國民の前に置かれた謎である。此の謎を解かんことを、我等六千萬の國民に要求するのである。



使命を果し得る力

國家の發展に、最も大切なる要素は、國民の士氣旺盛なることである。殊に國家が運命を賭して相争ふ場合に於ては、國民の精神状態如何が、直ちにその勝敗に大なる影響を及ぼし來るものである。即ち斯の場合最後の勝利が、國民の精神状態のより堅確なるものに歸するといふことは、歐羅巴大戰の状況に照して見ても克く了解せらるゝのである。敵國獨逸が今日までも優勢の状態を保ちつゝある事、又露西亞が斯の如く潰裂したる事は、即ち吾々の眼前に此の實例を示し、且つ吾々に大なる教訓を與ふるものである。如何なる國歩の艱難に遭遇するも、國民の精神にして健全ならば、國民の士氣にして旺盛ならば、困苦缺乏何かあらん。獨逸の如きは戦争前の正貨準備僅かに十億圓足らずであつて、今日迄に消費した戦費は、既に七百億圓に達して居る。而も猶國民は益々之に堪へて居るではないか。是は云ふ迄もなく、愛國心の旺盛なる

國民が、一枚の紙片でも、それが一圓なら一圓と云ふことにすれば、之を一圓で通して行き得たからである。つまり一の身代を三十倍にも四十倍にも振り廻し得ると云ふことは、國民の旺盛なる愛國心に俟たなければ出來ぬ仕事である。是は獨り獨逸のみではない、英吉利も佛蘭西も然うである。而して其の因つて來る所は決して一朝一夕の事ではない、平素國民精神の鍛錬に意を用ひた結果が、會々國家危急の場合に發現したるに外ならぬが、茲に最も注目すべきは斯の如く國民の士氣を旺ならしめた直接の力は何であるかと云ふと、實に少年乃至青年の燃ゆるが如き愛國心であつた。此の識烈なる愛國心が知らず識らずの間に國民を刺戟して、彼等を著しく緊張せしめたのである。所が、彼等青年に愛國心を注ぎ込んだ者は誰かと云ふと、即ち青年團の指導者若くは直接國民教育に任ずる教育家であつた。是等教育家が努力に努力を重ねて深く植え込んで置いた種子は此の非常の場合に一齊に萌え出で、今や彼等の努力の反應は其の勢の頂點に達して居るのである。乃ち此の戦争に依つて教育家の尊嚴が



頓に向上したといふのも、誠に當然の事である。扱て翻つて我日本の今日の状態を見るとき、國外の形勢は、最早國の運命を賭して立つたか立たぬかの瀬戸際に迫つて居る。獨逸の勢力下に在る所の露西亞の過激派は、既に浦鹽斯德に横行して、我國の生命財產にも多少の危険を與へて居るではないか。斯かる形勢であつて見れば更らに、何時何う云ふことが起るかも知れぬのである。然るに國民の士氣は何うであるか、四圍の狀況が是迄に切迫して居るに拘らず、國民の精神状態は、果して此の形勢に伴つて緊張して居るであらうか。此所に思ひ至ると吾々は實に遺憾に堪へない。吾々が弋を把つて起つ秋、當面の敵は即ち獨逸である。而して今次の世界的大戰争に於て、或は吾々日本國民が、更らに深入りせねばならぬと云ふ立場に遭遇するかも知れぬのである。現に歐洲各國を苦しめ、更に暴威を逞しうして、遂に一韋帶水を隔つる浦鹽斯德に迄羽翼を延ばして來た彼の獨逸に對して、日本は傍觀する能はず劔を揮つて立つた次第である。數次の實戰を経て關取格に上つた日本が、世界の土俵に上つて堂々の大角

力を取る時が來た。此の晴れの土俵に我が日本は彼れ強獨を一撃の下に取つて投げつけなければならぬのである。

彼の心臓に止の劔を突き刺さなければならぬのである。之れには國民が此の止を刺す丈の、意氣を有たなければならぬ。此の止は軍隊が刺すのではなくして、我國民の意氣が刺すのである。茲に到つて初めて日本に關取の役が勤まるのである。極東に覇を唱へるとか、東洋に威を揮ふとか云つたのは、日清戰爭、日露戰爭時代の事である。今度こそはそれこそ世界に威を揮ふべき時である。即ち日本が世界に發展する時である。誠に國民の意氣精神が彌が上にも振ひ立たなければならぬ場合であるに拘はらず、之を日清日露兩役の當時に比べると、今日の國民の狀態に聊か遜色を見るのである。日清戰爭後には日本が血と肉とを以て購ひ得たる戰勝の功を、一朝にして露西亞に奪ひ去られたといふ所から、恨骨髓に徹して臥薪嘗膽といふことが云はれた。然るに日露戰爭後は、ヤレ一等國になつたとか、金が儲かつたとか、寧ろ臥薪嘗膽とは

使命を果し得る力

鬼魂云々



反對に浮華輕佻の風を生じて、國民は安逸を貪つたではないか。是で獨逸に止めを刺せるであらうか、もう斯うなつては、國民一統大なる決心を以て、最後の一人になる迄も、我國が焦土となる迄も戦つて、彼に止めを刺さずには置かねと云ふ氣合を、漲らすといふことではなければならぬ。青年團が振ひ立たねばならぬのは此秋である。青年團指導者諸君に此の意氣込ありや。諸君に獨逸佛蘭西に於ける指導者に譲らぬ丈の抱負と決心ありや。

獨逸は既往四年間も歐羅巴で暴れ廻つて、今日では軍隊も國民も餘程疲勞して居る。之に向つて我精銳を以て當るならば、彼等を叩きつける位は敢て困難なことではない。寧ろ吾々は戦争當初の獨逸國民と雌雄を決する機會に到着し得なかつたことを、遺憾に思つて居る位である。併し乍ら幸にして、彼に止めを刺すべき任務は、吾々の手に落ちて來さうである。否是が吾等の使命であるかも知れぬのであるから、吾々日本國民としては、誠に愉快に堪えない次第である。が之れは今日の此の危急な場合を切

り抜けての上のことである。即ち青年團指導者乃至は國民教育に従事せらるゝ諸君の努力に依つて、燃ゆるが如き愛國の熱氣を青少年の間に吹き込み、之に依つて國民の意氣を昂奮せしめ、此の危急を切抜くる力を奮ひ起さなければならぬのである。而して國家が斯る重大なる事態に際會しはせぬかといふ慮りがあつたればこそ、又斯る場合に際會してもピクともせぬと云ふ底力を養ふ必要があればこそ、青年團が組織されたのである。青年團を修養團としたのも其處である。指導者諸君は此點に於いて大なる覺悟と決心とを要する。而も諸君の指導せらるゝ青少年の腦裏は極めて單純であつて、善き事も、惡しき事も、非常に入り易く、且つ之に動かされ易いのである。其の單純なる青少年の腦裏に指導者諸君の言動が如何に響くか。而して青少年の熱烈なる意氣が、彼等より年少の、又彼等より年長の國民の間に如何に勇氣を湧き出させるかといふことを考えると、日本の國運を擔うて立つ者は實に青年指導者及び國民教育に従事せらるゝ諸君である。故に吾々は此際特に諸君の努力奮闘を望まざるを得ない

Handwritten notes in the right margin, including the name 'H. P. H.' and other illegible characters.



のである。

### 早起は二文の徳

早起に就ては余が常に述ぶる所であるが、余が今こゝに此事を鼓吹するまでもなく諸君には大概早起を勵行せられ、又有識者の奨励によつて之れを始められた分會が多くなり、今日では大分普及されたやうである。これは精神上から云ふても、物質上から見ても誠に結構なことで、一寸目には見えないやうであるが一身一家の爲は勿論延いては分會の發展の爲に、總て豫想外の大効果を得らるゝことゝ深く信じて疑はない。

遠慮なく申すと、在郷軍人諸君が早起きをせられるのは當り前のことで、軍隊の生活をした覺えのある諸君は、既にその間に於て規律正しい軍規の下に訓練され、朝起などは充分に味ふて居られるのであるから、軍人としての本領を忘れさへしなければ

諸君に對して「早起をなさい」などと云ふのは、所謂釋迦に説法とでも云はうか、全く不必要なことであるのに、是れを奨励しなければならなかつたと云ふのは、どうしても規律と云ふ點に就て諸君が在營期間と幾分かちがひを生じて居ると思ふたからである。

勿論壯年者は精神上にも肉體上にも、一家の生計上又は公共事業の爲めに多大の活動を必要とするから、自然身心の疲勞といふものも多大である。従つて休む時には充分に休み、以て新鋭なる心身を回復しては、翌日の活動に充分なる精力を發揮する、と斯う云ふ順序になるから、其第一要素として睡眠時間を充分に得ることが肝要で、學者の説によると三十歳前後の壯年者にはどうしても、約八時間は睡眠する必要がある。其故夜は十二時や一時迄も仕事をして、朝は四時五時に起るとすれば、睡眠時間は四時間か五時間しかないことになつて、疲勞の回復が充分でないから、翌日の活動に充分なる精力を向けることが出来なくなる、是れも二三日の事なら大した弊害も起



らぬであらうが、日が重なるに随つて身體を衰弱させたり又は病氣に罹かつたりするやうになる。してみると、早起きをする爲めにはどうしても晩は餘り夜更しをせぬといふことにしなければならぬ。但し職業によつて夜遅くまで働く必要の人は之れは例外である。

嚴冬の早朝や夏の朝涼に驟然床を蹴つて起きると云ふのは、未だ早起きの習慣のない人にとつては、可なりの勇氣が必要で、軍隊のやうに軍規の下に起きたり寐たりするのは事違ひ、在郷軍人諸君の早起きは、各自の決心によつて行はるべき性質のものであるから、己れに克つといふ確乎不拔の精神が無ければ、寒い冷たい早朝に起き出ることには難しい。假令二三日は其が出来ても長續きはするものでない。今日は格別急ぎの仕事があるのでなしなどと思ふと、知らず識らず、温い床を離れるのが厭になつて、十分過ぎ三十分経ち、再び寐込んで次に目が醒めた時には、もう日は高く昇つて居るといふやうな有様、こんな事では逆も實行が續けられるものではない、用事

があらうがあるまいが、寒からうが暑からうが早起すると定めたならば思ひ切つて起き上る、そして其れが癖にならなければ繼續は覺束ない。

地方青年の惡風たる夜遊び、店遊び、夜更かし等は早起の出来ない最大原因であるから、早起の勵行さへ出来れば睡眠と生理的關係から、其等の惡習を根絶し、大に遊蕩、淫佚の弊風を打破し、冗費を軽減することが出来る。

人間は誰しも長生がしたい、普通の人ならば衛生上の注意を能く守り身體を丈夫にして行きさへすれば天然に壽命を全ふすることが出来やうけれども、軍人の命は君國に捧げたものであるから何時抛け出さねばならぬかも知れぬ。一朝國家に事がある時は真先に命を捨てなければならぬのだから衛生に注意し身體を丈夫にして行きさへすれば天壽を全うするといふ譯には行かぬ。故に五十まで生きるの、七十まで生きたいなどは軍人の口にすべきことではない。此點は平生から已に覺悟して居らねばならぬ。



従つて時日の上に於て一般國民と働きを同一にして行つたら、當然遜色を招くに決まつて居る。ならば、如何にすれば時日の不足といふものが補はれるであらうか。其れには二種の方法がある、即ち他人よりも一日の實働時間を多くするのが第一法、他人よりも働く實質を大きくするのが第二法で、他人が一日に八時間働くならば自分は九時間働き、他人が一時間に八つもの物を成し上げるならば、自分は十のものを達成する。而かも此二者を相合するならば、僅か一日の仕事量でも他人のものに比較すると非常に差が生ずることであらう。其れには先づ早起をして他人よりも働く時間を多く得るといふことに着眼するのは至當なことである。

既に余が度々申述べたやうに、朝起をすれば身心が鋭敏となり朝寐をするにダラける。従つて一日の仕事の上にも精力の強弱が出来て来るから働く實質上にも多大の關係を來たし、又實際に働く時間に於ても早く起たすだけが長く得られる。されば朝起といふことは前記二方法を達成する原動力となるものであつて、大切なる規律心も、

服従も、協同も皆之から生れ出ると云ふても決して過言ではないのである。

今他人よりも早起の點に於て一日に一時間だけ餘計な時間を得るとすれば、一年で三百六十五時間となり、十年経てば三千六百時間三十年間で一萬八百時間となるから、一日の實働時間を八時間とすれば三十年間に於て約四年だけ延長したことになる。他人が三十年の生命を保つ代りに自分は事實に於て三十四年間の生命を保ち得るの結果となり、其上に旺盛なる體力と意氣とを以て活動するから、實際に於ては八年も九年も長生きをすることになるのである。即ち之れでこそ、一般國民としても耻づかしからぬ理由で、軍人は其の心得を忘れては軍人としての誠心に不充分を來たし、一般國民たるの資格を缺くばかりではなく、軍人としても不完全なるものたるを免れ得ない。既に此心得が必要である以上、吾々軍人は之れを底の底までやり徹すだけの克己心を發揮しなければならぬ。

そこで、早起きの時間を最も有効に使用するといふことが、極めて大切な問題とな



るが、今日地方に行はれて居る所を見ると、毎朝時間を定めて村の氏神或は忠魂碑の傍等一定の場所に集まり先づ皇城の方に向つて敬禮を行ひ、然る後體操とか兵式教練などの練習を行ふて居る所もある、或は此時間丈け草鞋を作るとか繩を縛ふとかして、其收入を以て分會の基金を得やうとしてゐる所もある、又修養(讀書)に充てゝ居る所もある、が、如何なる使用法が適當であるかと云へば、それは地方地方等の風俗習慣等も異つて居るから、一概に斯うとは云はれないが、要は一日の生命を一時間でも二時間でも延長するのである。而し、其使用方法が理想的でないとしても分會員が全部朝日の出ぬ裡に未だ一般人が暖い夢に耽つて居る間に、早起き出で、何かしてゐるといふことは、會員の精神を統一する上にも、又協同心を養成する上にも極めて有益な事であるから、分會長並に役員諸君は、適當なる規約の下に團體として之を奨励實施されるなり、又は各個人に適當の行事を授けて奨励されるなり、其處は諸君が利害得失を講究されて實施されたら宜からうと思ふ。

以上述べた通り早起きには、斯様に重大な意味を有して居るのであるから、此ことを能く會員諸君が厭味されたら少年時代から實行すればよかつたと思はれる節があらう。が、只今から實行されても決して遅くはないから、同時にさういふ御心があるなら必ず此事を青年に奨励されて、彼等をして惡風に染むの機會を與へないやうに指導されることが是亦最も肝要である。

### 働いて家を富まし國を盛んにせよ

人は誰も一生の間安樂に暮らしたいと思ふものである。その望みを充すためには、何人も、役人でも、商人でも、或は農夫でも、皆各自の務を熱心になければならぬ。そうすれば、必ず幸福や安樂が向いて來るものである。一生懸命に働いて幸福になれぬといふことはないのである。幸福が向いて來るまで、ある限りの智恵を絞り、身體の續く限り、一生懸命に働くべきである。それより他に幸福になる法はないので

働いて家を富まし國を盛んにせよ



ある。「稼ぐに追付く貧乏なし」といふことがあるが、働いてさへ居れば、決して貧乏に苦しむことはない。招かずに居つても、金でも地位でも、自然と向ふかち入つてくるのである。「運と果報は寐て待て」などと、怠けて其日を送つて居るものがあるが、それは働かずに幸福を得やうとする横着な馬鹿者のすること、人間の多い、競争の烈しい今の世の中で、そんな道理のあらう筈はない。

ところがそれ程に働かないでも、割合に裕福に暮らして居るものがあるのに、幾ら働いても、思ふやうに暮らして行けぬといふ者がある。稼ぐのを追越して来る貧乏神に随分惱まされて居る者がある。けれどもそれは、其人に、まだどこかに不充分の處があるからである。智慧が足らぬとか、考が浅はかだとか、金の費び方が悪いとか、どこかに足らぬところがあるからである。運が悪いなど云ふことはあるものではなくて、その不充分な所をうめ合せの出来るだけには、まだ働きが不足なのである。さうゆふものは人の二倍も三倍も働かなくてはならぬのである。

人は皆誰でも裸で此世に生れて来た者である。働かなくては、着られもせなければ食つてゆくことも出来ない。せめて食ふことと着ることだけは、どうしても働かなければならぬものである。それなのに金持ちの家に生れたものが、働かずに遊んで贅澤をしてゐるからといふて、働かぬやうにするのは馬鹿である。又それを羨んでばかり居るのは、羨む方が悪いのである。金持の子に金のあるのは、只先祖が働いてくれた御蔭だからといふもの、それでも決して働かんでよい理はないのである。働かないのが悪いのである。それを羨んで、遊んで居て働かぬやうに、一擲千金を夢見るなどは、猶更悪いことである。まかりちがへば大變なことになるのである。人はたゞ一生涯眞面目に働くべきであつて、決して一時だけ働けばよいといふ筈のものではないのである。命のある限り、出来るだけ働くべきものである。そして行つて始めて物事も仕上げる事が出来、本當に安樂に暮らす事が出来、幸福にもなる事が出来るのである。一時でなくて、いつまでもそれを根氣よく續けて居る



と、いつとはなしに立派な花が咲き實が成るものである。がさく〜と一時にやりあげやうとすると、身體をこはす、色々なことに躓く、そして思ふやうなことになるぬものである。

忠臣藏で有名な、大石内蔵之助の根氣のよい働きは、どうゆふ實を結んだか、城を明け渡す時分に、氣早い武士達は、頻りと早く復讐をいそいだ。けれども大石はまあまあと言つて、それを急がなかつた。同志ですら、ほとんど愛想をつかしかけたのであるが、それでも大石はちつと我慢し根氣よく熱心につとめた。そしてどこまでも其の計劃を成し遂げる覺悟で、いろ〜の困難と戦つて、ゆるゆると働いたのである。成程元祿十四年三月から、十五年の十二月までといへば、僅か一年と九ヶ月であるからそれほど長いともいへないが、其の頃の天下は吹く風も枝を鳴らさぬといふ太平の御代で、しかも徳川幕府の麾下の真中である江戸は本所松坂町の吉良の屋敷へ、四十七人といふ大勢が勢揃ひをして乗込み、立派に復讐を仕遂げるといふことは、とても尋

常の努力では出来る事でないのである、大石のやうな腹の大きい男であつて、いつ迄かゝつてもやり遂げるといふ覺悟であつたからこそ、立派に仕遂げられたのである。つまり人は一生の間努め働くといふ考でかゝらねば、本當の幸福と云ふ實をもぎとることは出来ぬのである。そしてその働くといふ習慣は、相當に年をとつてからつけやうと思つても、思ふやうに行くものでなく、どうしても若い時からつけて置かねと駄目である。又さうしないと、自然と人に後れを取らなければならぬことになるのである。

### 日本人は眞に此の如きか

近頃或る外國人が我が日本人を批評して西班牙人に似て居ると云つた。一體西班牙は何う云ふ國であるかといふと、昔時は名高い大國で、其の文明を世界に誇つたものであるが、段々國民が柔弱に流れ、驕りに長ずるやうになり、近世に至つては國威の

日本人は眞に此の如きか



振はざること甚しく國民の志氣の廢頽して居る國はと云へば、西班牙であると云はるゝまでになつて、殆んど今では他の眼中にも置かれぬ有様である。此の西班牙に似て居ると云ふのは抑も如何なることを意味するのであらうかと、其の似て居る理由として並べ立てゝある箇條を見ると第一——に時間を守らぬことが實によく似て居ると云つて居る。時間を守らぬといふことは其の國民が不節制で、時間の尊いことを知らぬ云ひ換へれば懶け者であることを表すものである。乃ち西班牙人は文弱に陥り遊惰に流れ、不節制であつたから、斯の如く衰亡に近い國になつたのである。此の時間を守らず、節度の無いといふ點で、日本人が西班牙人に似て居ると云はれては、我々も大いに考へなければならぬではないか。其次には國民に貯蓄心が乏しいことに於て似て居るといふ。西班牙は嘗ては世界中に大きな殖民地を所有し、其の財政も非常に豊で奢りを極めたものである。之れが段々英吉利や佛蘭西や其他の國々の壓迫を受け、其の龐大な殖民地も是等の國々に奪はれて、今は見る影もない有様に陥つたといふもの

は前に述べた通り國民の精神に節度がなくなつたことも大なる原因ではあるが、之れと同時に物を節約するの觀念に乏しく、金錢を浪費したと云ふことも大なる原因の一である。日本人も是と同様に貯蓄心に乏しく節儉を守らぬ、是は日本人の大なる缺點である、凡そ金錢を浪費する者に勤勉な者はない、浪費と不精勤とは相伴ふものである、と云つてある。其の次に似て居るのは經濟の解らぬ事である、總て如何なる場合にも収入と支出との辻褄を合せて行くと云ふことでなければ經濟は維持されぬものである。それを顧みずに華美驕奢の風に流れるといふことは、これ即ち國を危くする所以ではないか、斯う云ふ所が日本人と西班牙人と似て居るといふのである。或はさうかも知れぬ。日本人は兎角見え坊であつて、収入に伴はぬ立派な門戸を張つたり、美服を纏つたりして、人目を繕ひ體裁を飾りたがる、其癖家の中は火の車の如き有様で何時破産するか分らぬといふのが随分ある。此外に未だ似た點として擧げられた箇條は二三あつたが、自分が特に諸君の考慮を煩したいと思つたのは以上の三點である。



彼の外國人は云ふ、日本國民は斯の如き國民であるが故に其將來推して知るべきのみと、而して彼は斯くの如き國民が何程の事を爲し得やうか、孰れは西班牙の二の舞を演ずるに過ぎぬのだから、少しも恐るゝに足らぬと結論したのである。諸君、是は必ずしも日本人を誹つたものと見てはならぬ、是れ誠に他山の石である。我々が考へても然りと首肯せらるゝ點がないことはないのである。そこで斯る國民性の缺陷とも認めらるべき點を矯正して行くことは、是れ即ち青年團の大なる事業でなければならぬ修養々々と云つて、其の手段に迷ふて居る場合ではないのである。唯だ單に此事のみには限らぬ。地方には夫々惡弊、惡習慣が随分あるものである。それ等を矯正して行くことは即ち善良なる國民を作り、國民の堅固なる精神を鍛練することになるのである、顧みれば日本國民も、外國人に斯る批評を受ける様では、未だく鍛練が足らぬ諸君も、我が國民の大なる責任を自覺して、自らの修養を心掛けて頂きたいのである。序でながら申して置くが近頃青年團と關聯して實業補習教育といふことが盛んに唱へ

られるが、是は誠に相離るべからざるものであつて、補習學校は同時に青年團員の集會所でなければならぬ、單に實業上の知識を彼等に與へるのみならず、補習學校は青年に對して精神的の修養をも與へて行かねばならぬものと思ふのである。即ち補習學校に於て學理の教授をなすに當つても、亦試作地の實習を爲すに就ても、常に修養を離れず、或は共同的に作業するとか、物を規律的に處理して行くとか、集團的動作の効果を擧げて見るとかして、自然に國民の善良なる素質を養つて行くことを心懸けて行くべきものであらうと思ふ。此點から云つても青年團と補習學校とは相離るべからざるものである。世間往々此の兩者の關係に就て、誤解があるやうであるから、茲に特に一言して置く次第である。

### 恐るべき思想の壓迫

今般の大戦争後、世界の思想界に大變化を起して、それと同時に是迄我々が保持し



來つた思想とは全然正反對の思想が世界に充滿し、そしてその反對の思想が日本に大なる壓迫を加へ來ると云ふことは、想像するに難くはないのである。其時に日本は、之に反抗し、而して飽く迄も此の滔々なる世界の思想の潮流に逆行する力がなければ日本は精神界に於て必ず危殆に陥るのである。故に日本は世界に孤立して迄も、吾々の保持して居る思想と精神とを攪亂されぬやうに、常に覺悟して居らねばならぬのである。内務文部兩大臣の訓令に、青年團體は事業團體に非ずして修養團體と云はれてあるも、畢竟其の御趣旨は此點に存するものと思はれる。即ち青年團に於て先づ第一に無形的なる精神思想からして鍛錬し、世界の大力に抵抗し得る様にして置かねばならぬといふ意味から、之を修養團となされたものと思ふのである。

然るに近頃最も憂慮に堪へぬのは、露西亞が現今の如き状態になつて、直ちに實例を示すといふ譯には行かぬが、何となく日本の人心に妙な感じを惹起されたといふ事柄である。殊に若い青年就中教育程度の高くない青年に然う云ふ思想が入りはせぬか

と憂慮する人が多い様であるから、此際私は、過激派の爲に秩序を失つた所の露西亞の混亂状態の概略を一言述べて置かう、御存知の通りレーニン政府は極端なる社會共產主義を以て全く露西亞帝國を破壊し、今日では殆んど國家を無秩序の状態に陥らせて仕舞つたが、抑も斯の如く露西亞の内部を攪亂せしむるに至つた端緒は何處にあるかと云ふと、初め獨逸は、露西亞國民の多數——殆んど七十%が全く無智文盲の無教育者で、理解力に乏しいと云ふ事を利用して、國の内部を攪亂し始めた所が、段々夫れが成功して遂に露西亞皇室が滅亡し、國の中心が無くなつたのである、此機に乗じて、嘗て世間から擯斥せられた所の社會共產主義者が、遽に勢を得て、其主義の鼓吹を始めたから堪らぬ、多數の無智な國民は殆んど之に魅せられて、悪酒に酔へるが如く、社會には秩序も禮義もなくなり白晝公明盜賊横行すると云ふ有様で、國家組織の聯絡も何もあつたものではない。果は聯合國の範圍を脱し之を度外視して、勝手放題にも敵國と單獨講和をやつて仕舞つたのである。本を尋ねれば今度の大戰争の起



りは露西亞であつて、英吉利も佛蘭西も、其他日本も伊太利も素々お付合に過ぬのである。其の義理ある億國を振捨て、本家本元からあり云ふ始末になつたのだから誠に呆れざるを得ないのである。一方の獨逸は、最初露西亞の内部を攪亂し、之を單獨講和をして聯合國の勢力を殺がうと云ふ考から、一時レーニン一派と手を握りかけたけれども、此の危険なる思想を有つた社會共產主義と接近すると、自分の方の國民が之に感染する虞れがある、虞れがあるどころではない。既に彼と接近したが爲に、獨逸にも埃太利にも大同盟罷工が起り社會共產主義的の電流が、一時兩國の上下を惑亂させたのである。然し獨逸の國民は露西亞の國民と違ひ、教育あり鍛鍊ある國民であつたから、政府の處置宜しきを得た事と相待つて、國家を亂すに至らずして此の電流は絶縁され、内部の秩序は僅かに一週日を出でずして恢復されたのである。國民平素の教育鍛鍊の効果は實に斯くの如き際にも現るゝものである。そこで獨逸は今日では彼の過激派を遠ざけ、却つてその反對の側に立つてをる小露西亞即ちウクライナと

單獨講和をした。尙ほ其上に、過激派に反對の波蘭及び芬蘭の獨立を助けて居る。斯くして危険なる過激派を遠ざけると共に、小露西亞波蘭芬蘭を手に入れ、是等の土地から物資を得て息を繼がうとしたのは、獨逸も却て巧妙な手段を執たものである。之れに反して過激派のやり方は全く傍若無人の態で、國際關係を顧慮するでもなければ、國の體面を考へるでもなく、云はゞ自暴自棄とも云ふべき有様である。獨逸は之を遠ざけた許りでなく、聯合與國にも誰も此政府を認めるものは無い。彼等は最早立つ瀬がないから結局復た段々獨逸に屈伏することになつたのである。或る人は、獨逸が過激派を遠ざけ、過激派が獨逸に反對したのは所謂表面丈けのことで云はゞ八百長であるといつてゐる。それは別問題として、兎に角レーニン政府が獨逸や埃太利に此の悪いパチルスを傳播させやうとしたことは事實であつて、單に獨逸二國のみならず彼等は更に英吉利や佛蘭西に迄も此のパチルスを植込まうとして居る。殊に我日本に深く傳播させて、日本の國民の思想を攪亂させやうと云ふことを企つるに到つたので



ある。その爲に彼等は特に委員を組織して、之を日本に派遣し、此の危険なる思想を傳播する機關となるべき學校を日本に設立しやうとして、今其の計畫中であるといふことを仄かに聞いて居る。諸君は何に日本人は如何になんでもそんな思想に感染するやうなことはないか、斯ふ思はれるのであらう又さうなくてはならぬことであるが、此の問題はさう輕々しく考へる譯には行かないのである。彼の露西亞文學と稱せらるゝものは、其の思想が青年の或る一種の慾望に投じたものであつて、之を讀む内に自然に其の思想に感化されて來易いのである。従つて日本に於ける社會主義者など云ふ者は多く露西亞文學の系統を引いて居るのである。さうゆう様な關係から露西亞の思想は既に大分日本に入込んで居る上に國と國とが隣合せであつて、新に危険思想を注入せらるゝといふに付けても、誠に注入せられ易い状態にあるのである。即ち益々精神上の鍛鍊修養に努めなければならぬ時勢になつて來たのである。私は兩三年前から大なる思想の壓迫の襲來すべきことを頻りに絶叫して、世の覺醒を促して居るが

最早既に其壓迫の端緒がやつて來たのである。もう愚圖々々しては居れぬのである。茲に於て彌々青年團は前の事業團體なる青年會を改變して、所謂修養團にならなければならぬといふ理由が明白になつて來るのである。即ち今日に於ては青年の德義心の涵養、國民精神の鍛鍊と云ふことが、青年團體の最も大切な仕事なのである。將來我が青年の德義心國民精神に、一點でも罅が入つたならば、到底世界の變局に處して國威を發揚し、國力を増進する事の出來る筈がないのである。之を指導者側から云つたならば、青年團に對しては夫々に異つた註文があるであらう。例へば青年團員には生産上の能力が不足してゐるから、之れを註文することが最も大切であるとか或は智識の増進を圖ることが最大の急務であるとか、或は實際の仕事に馴れしむることが一番大事であるとか、各方面の人々が銘々に希望を持つて居ることであらう。無論それらも必要なことには相違ないけれども、青年團の根本は動かすことを許さぬのである。即ち何處迄も精神鍛鍊と德義心の涵養を基礎にして行かなければならぬ。之を基にし



て生産上の能力を増進することに努むるも宜からうし、智育の發達を圖るも宜からうし或は又實際的の技能を磨くも宜からう。唯だ農業上の事を修鍊するにも、工業上の智識を注入するにも、青年團に於ては、常に修養の意味を之に含ませることが最も大切なのである。

一日は一日より重し

一の國家、一の地方、一の家に於て其國其地方乃至は其家を繁榮ならしむるには、是に當る人を造らなければならぬといふことは申すまでもないことである。即ち國家富強の途を圖らんとするならば國民の鍛鍊が第一である。地方を繁榮ならしむるに就ては其の地方人士の指導が大切である。又其家を盛んならしめんとすれば、其の子弟を教育して行かなければならぬのである。吾々の敵國ではあるが、其獨逸が、今日の如く克く國難に堪へ而も元氣が衰へず、よく積極的に行動し得るといふことは、一に

彼等が平素に於ける國民鍛鍊の效果と言はなければならぬ。而し又露西亞が今日の如くなつたといふことは、其反對に國民の鍛鍊に努力しなかつた酬ひであることを吾々に示すものであると云はなければならぬと思ふのである。殊に獨逸が青年少年に向つて、國家的觀念乃至は勤勞的精神を注入することに就て非常の苦心を拂ひ、又非常に努力し來つたといふことは今こゝに事新しく言ふまでもないことである。即ち彼の國の教育家乃至は青少年の指導に關係して居る人々が、實に熱烈なる精神を以て彼等の單純なる頭へ熱い氣焰を吹き込む所から、其の吹き込まれた氣焰は聽て彼等の燃ゆるが如き愛國心となつて發露し、さうして、夫れが遂に一般の年長者に及び、更に一般の國民に及ぶといふことになつたのである。

一昨年の夏獨逸皇帝は、獨逸國內の糧食缺乏を救ふと云ふ意味から、小學の兒童に對して勤勞を獎勵する爲に一の勅語を下したことがある。是は小學校の生徒に所謂農事休暇を與へた時に下されたものであるが、此の農事休暇と云ふのは收穫の時、若



くは植付の時に小學校の生徒に休暇を與へて、其の休暇の間に彼等をして收穫若くは植付の事に當らしむるのであつて、休暇とは云へ休養の爲ではなく、却つて其の間に働かす爲の休暇なのである。そこでその勅語の中に斯ふ云ふ言葉がある「畦畔は汝等の塹壕なり、田圃の雜草は汝等が敵なり、汝等は疲勞を知らざる獨逸兵なりと覺悟せよ」此の言葉は簡單であるけれども、其の意味や實に深長で、即ち小國民が此の勅語の爲に如何に勇躍奮闘して、一尺の土地と雖も之を利用し、一本の草と雖も農園には之を生やさせないと言ふ勢で、恰も戦争に行つてをるといふ觀念を以て努力したといふ有様が眼前に彷彿として現はれるやうに感ずるのである。小學校生徒にして猶斯の如し。況して一般國民の氣風は推して知られるのである。而して國民が勅語に依つて斯くも奮發奮起して居るのは何の爲であらうか。是れ云ふまでもなく一般に國民教育が行き涉つて居るといふことを證據立つるものである。即ち教育に任ずる人々が熱誠を以て彼等國民に吹き込んである所へ、此の勅語が下つたので、更に一層奮勵するに

至つたのである。其の効果空しからず、今日では露西亞の富裕なる部分は皆獨逸の占有に歸し、最早糧食にも窮することなく、何事にも餘りに困難を感じないやうな状態にあるやうである。

先頃此の活動的な獨逸人が一體どの位食物を攝つて居るかといふことを、調べたところがあるが、一昨年今申した勅語の出た頃から、昨年の秋頃迄の調べに依ると、獨逸人の平生に於ける平均一食分と、日本人の平均一食分とを重量に依て比較して見ると彼等の麵麩と日本人の米其他の穀物とを比較するに恰度日本人の食ふ約三分の一の量である。夫れから肉類野菜類の如きものは、日本人の平生食ふものゝ約二分の一である。此量で獨逸國民は大活動を爲しつゝあるのである。日本の青年はこの獨逸の状態を見て何と感ずるであらうか、此の點に就ては特に指導者諸君の考慮を煩したいのである。

日本は何か一朝事があると他國との交通の絶える憂ひがある。本來日本は島國であ



るから、外國との交通は戦争が始まると共に断絶すると云ふことは見易い道理で、殊に日本の西の方面は容易に断たれるべき状態にある。そこで一朝交通を断たれた場合にどうするかと云ふことを、日本國民は今日から考へて置く必要がある。屢々申した如く最早今日の日本の國情は將に危急の状態に瀕しつゝあるのである。實に今日は針の刺に座するが如き國の状態であるのである。而も日本は交戰國の一ではないか又實際に交戰國の一であるに拘はらず、多くの國民は斯く感じない許りでなく、手を拱いて居ても金が儲かる位に考へて居つたが、今や形勢が切迫して來て、たちまち頭のうへに火の粉が落ちたのである。其の時になつては人の力を頼む譯には行かぬ。自分の頭の上に落ちた火の粉は自分で拂ひ落さなければならぬといふ状態にあるのである。さうなるともう國民の覚悟は一つである即ち國家の運命は國民の精神如何に因り、國民の覺悟如何に因つて定まるのである。斯の如く外の状態が切迫して居るに拘らず、國民が未だ緊張して居るやうに思はれないといふことは、誠に遺憾千萬なことではない

か。

青年は戦争が起つても、在郷軍人とは違つて、直に兵器を帯びて起つといふことにはならない。併し更に段々事情が切迫すれば、今日の獨逸や佛蘭西の青年の様に彼等も兵器を帯びて起たなければならぬといふ場合に立到るかも知れぬといふことは豫め考へて置かなければならぬ事である。是れ實に平素訓練の効果を事實の上に顯すべき時であるが、それにしても其の時に方つて彼等の精神が緊張して居らぬならば折角の効を空しうするより外はないのである。單に青年ばかりではない、是が指導に任せらるゝ諸君は、斯かる時勢に際して、自己の責任を一層痛切に感じられることであらうと思ふ。吾々此の青年團の事に努力して居るものは、所謂朝夕夢寐の間と雖も念頭を離れぬ所の苦心は其處にあるのである。今茲に獨逸皇帝が小學校の生徒に與へられた勅語を御紹介すると云ふことも此の簡單なる勅語の中の言葉が諸君の注意を喚起すると云ふことに於て意義があると思ふからである。實に「哇畔は汝等の塹壕なり、田



圃の雜草は汝等の敵なり』此の意氣が肝要である。獨逸の青年は此の意氣を以て進んで來るのである。之に反して日本の青年がそれだけの覺悟があるであらうか、況して日本の青年は、馳て獨逸の青年等に向ふに廻して雌雄を決せねばならぬ時が來るかも知れぬといふ場合である。素より自分は諸君の指導せらるゝ青年が獨逸の青年に立優つて居り、而して必ず是に打ち勝つと云ふことを信じて居るものであるけれども、尙ほ杞憂の餘り茲に老婆心を披瀝する次第である。

### 斷行を要す

近來歐洲の交戰國間に面白い現象を生じた。是は吾々が常に苦心し、又當然斯くあらねばならぬのに、それが現實されぬことを憤慨してをつた事柄である。それは外でもない各國其國民教育に任じてをる教育家に向つて各方面の人々が近來大いに敬意を拂ふやうになつた事柄である。今日聯合側にしても同盟側にしても國民の士氣を鼓舞

する上に最も功勞あり最も光輝を放つてゐるのは何であるかと言へば、小學校の教員である。是等國民教育に従事する小學校教員が熱烈なる愛國心と適當なる指導法に依つて小國民に愛國心を注入し、犠牲の觀念を注ぎ込んだ結果、小國民の愛國心と犠牲の觀念は彌が上にも旺盛になつて、遂に親達を感化するといふ今日の有様である。

最近にかうゆふ事がある。是は愉快極る話であるが、戦争前佛蘭西では兎角政治家も實業家も、戦争は起るべきものではない、兵備などがあるから戦争が起るのだ、平和を希望するのが國民の最大幸福であるから、兵備などは餘り力を盡さぬ方がよいと云ふ見地から、從來國民教育者が、千八百七十年普佛戦争に於ける佛蘭西の失敗に對して小國民に復讐心を注ぎ込んで居ることを非難したのである。

然るに教育家は毫も之に耳を藉さない、佛蘭西を救ふ所以は即ち國民の意氣銷沈を防ぐにある。政治家や實業家は一時の狀況に眩惑されて國家百年の大計を誤るものであると却つて益々愛國心の注入に努めたのである。今となつては政治家實業家も以前



の不謹慎の言論を取消して、國民教育家に謝罪して居る。即ち謝罪の意味から彼等は進んで一兵卒となり、戦線に立つて勇猛に働いて居る。教育家は又益々小國民を鼓舞激勵して最後の一人の血の流れる間は此國を失つてはならぬと、日夜奮勵努力して居るのである。

何人も戦前の佛蘭西を見て、今日の如き働きをしやうとは思はなかつた。夫れが今日聯合軍の中堅となつて奮闘して居る所以のものは、實に小學教員が一貫した主義の下に殆んど帝國主義的の教育に努力した資である。此の教育家の確く執つて動かなかつた教育上の見地と、現大統領ポアンカレ氏が是等教育家に相俟つて青年團の事業に夙夜熱心努力せられた事が、即ち今日佛蘭西の運命を支へて居る所以である。之をみても我が日本の教育家諸君に於て、國の將來といふことに關して充分に考慮されんことを望むのである。即ちこの青年團の事業に對して、教育家諸君は既に覺悟もある事であらうと吾々は深く信じて疑はぬのである。

青年團は、今日の所大部分、内務文部兩大臣の訓令に依つて、義務教育を終つてから滿二十歳迄の青年を以て組織することに變更せられたやうであるが、まだ或る部分には二十歳以上の者も團員に加へて居る所が甚だ尠くないといふことである。是はその地方の特別な事情乃至は行掛り等の爲に斷行を躊躇せられた關係もあらうが、自分はこの際總ての青年團體に、此の訓令通りに組織を改むることを斷行して貰ひ度いと思ふ。此の滿二十歳に年齢を限定するといふことに就ての理由は、當局者も屢々説明を試みたことであるから今更その必要もないが、今世界各国が此の青年團の事業に何れ丈け注目して居るか云ふ事は、昨今歐洲各國に斯ふ云ふ言葉が流行して居ると云ふ事が偶々其半面を説明して居る。

國民の體力を強壯にし、剛健にして進取的の氣象を備ふる國民を養成するの術を辨へ居る國は即ち世界に優越したる國となる事を得。

此の言葉は最早動かすべからざる原則として盛んに流行して居るのである。従つて



この原則を如何に現實ならしむるかといふことに就て、各國の教育家が、一方に其の國民が戰場に相争つて居る間に極めて熱心に研究の歩を進めて居ると聞いては、吾々大いに考慮せざるを得ないのである。今日の國際間の戦争は續いた所でさう永くはない、けれども國際間の競争は戦争が濟んだ後、戦争の爲に蒙つた損害を癒する爲にも一層激烈になることはいふまでもない、國と國との競争は即ち國民と國民との競争である。そこで他の國民と競争して打勝つ丈の國民を作るには如何にすべきかと云ふ事が今日各國教育家が熱中してゐる當面の問題である。

將來世界の競争に打ち勝つ丈の優越なる國民を作ると云ふ事は、云ふ迄もなく實に重要な國家的事業である。従つて苟くも我が國民たる者は、政黨政派の如何を問はず、又其の従事する職業の如何や貧富の如何を論せず、悉く私心を去つて此の事業の發展を圖つて行かねばならぬと云ふ事も是亦普遍的の原則として唱へられて居る事である、即ち青年團の事業は極めて純白中正でなければならぬ、或は政黨の關係とか事

業の關係とか個人の利害關係とか、或は政治上の見地の相違とか云ふものから、苟くにも色の着くといふことは、即ちこの事業を頓座せしむる最大の原因である。茲に於て團員の年齢を滿二十歳に限定する必要があるのである。男が滿二十歳即ち徵兵適齡を通過すると、社會に獨立して働く人になるのである、一旦社會に立つて獨立すると最早其人には一種の利害關係が伴つて來る譯である。さう云ふ一身に利害關係を有つたり政治上の關係を有つたりした人が團員になつては、青年團の中正純白を保つ事が出來ぬ、必ず一種の色が着く。然らざるは是に反對するものが必ず生じて來る、従つて其の團體に種々の忌むべき事柄が発生して來るのである。内務文部兩大臣の訓令に於て年齢を限定せられたのも、理由は其點にあるのである。

若し此の訓令通りに年齢を限定することが、從來の事情の爲に出來ぬと云ふことであれば、既に其の團體は青年團の目的に適つて居らぬことになるのである。即ち其の團體の或る部分に、一種の政治上の關係とか事業上の關係が纏綿して居るに相違ない



のである。訓令に於て團體の指導者として小學依長を本體としたのも、實に此點を心配せられた結果に外ならぬ。即ち教育家は純白中正にして、世の中の政治とか他の事業等に關係があつてはならないのである。所謂利害關係に超然たる人でなければならぬのである。其人を指導者とする事は青年團を中正純白ならしむる事と相一致して居る。此の理由からして小學校長をして指導者とするに云ふ大體の標準を示された次第である。

以上申述べた精神から云つても是非この年齢の制限を斷行しなければならぬと思ふのである。で斷行するならば今である、今日のこの好機會に於て斷行が出来ぬならば今日この世界的戦争で人心が不安の念に驅られ、國の將來に對して思案の首を傾けて居る此時ですら斷行が出来ぬと云ふならば何時の時か斷行することが、出来やう是が戦争前の状態に復しては尙更斷行が出来ぬ。若し先へ行つて出来ると云ふならば今出来ぬといふことは決してない、即ち今に於て斷行が出来なければ、何時まで經つても

出来ぬといふことになりはすまいか。何うか此際、種々事情はあらうけれども、夫等の事情を排除し又各方面に納得させて、訓令通りに組織を變更されむことを切に望む次第である。併し從來の關係で、二十歳以上の人を全く無關係にする事が、出来ぬならば、二十歳以下のものを正團員として之を基礎として、夫れ以上の人は贊助者とか援助者とか適當の名を以て關係を持続させる事も止むを得ぬ事であらうと思ふ。

年齢を改むると共に、從來青年會又は何々會と稱して來たものは此際青年團と改稱することが必要ではないか、青年會とか何々會とか云ふ名前が存して居ると、其の組織等も以前通りになりたがるものである。即ち名稱もこれを斷然何々青年團と改めることが至當であると思ふ。

青年團の事業として是非とも實行して貰ひ度いと思ふのは朝起會である。是は近來各地に段々行はれて來てをる。凡そ青年團の事業としては、先づ第一にその地方の人に大なる覺醒を與へることが必要である。換言すれば從來の惰力を打破して其の地方



に一新紀元を劃することが最も必要である。而してこの覺醒を促すことは朝起會が最も有効であると思ふ、是は獨り青年團員の爲許りではない、その地方一般の人々の感興を呼び起すと共に之を覺醒せしむる。即ち先づ第一に青年の體力を壯んにし、懶惰にして柔弱なる人間を奮起せしめ、其の氣風を剛健にし、共同の觀念を養ひ、規律正しき習慣を作るのみならず、惹いて其父兄をも之に倣はしむる上に頗る効力のあることは、之を既に實行してゐる地方の狀況に徴しても疑なき事である。

ある地方では朝起を實行した爲に、青年の夜遊びをする事が自然になくなつた。彼等が朝早く起きて働く爲に其の親達も自然早く起きて生業に従事する事になり、一村の風紀が改まると同時に其の地方の生産力にも好影響を與へて居るといふことである。朝起と夜遊びとは兩立することが出来ぬ。青年團指導者の方々は此際一つ奮發して、思切つて之を實行されてはどうか。吾々は青年團事業の第一歩として切に朝起の實行をお勧めする。

世の中には、地方風教上の事なり精神上の事なり或は國民の體力に就てなり、色々の點から悲觀する人が多いが、之を矯正することを考へ又實行する人の少いのは甚だ遺憾である。所謂論より證據である。悲觀するより實行が第一である。今は悲觀の時ではない實行の時代である。若し朝起が全國に普遍的に行はれたならば、其の効果は實に偉大なるものであらうと思ふ。

### 大覺悟を要する場合

青年團に就ては、青年の體力を強健にし、意思を剛健にし、而して積極的に事を遂行して行く元氣を養ふことが非常に肝要であるが、此上時弊の矯正に力を盡すことが青年團の大事な任務である。其處で今の時勢は何う云ふものであるか、弊害は何うゆふ處にあるかと云ふに、歐洲大戰の影響で、我國の經濟状態は意外の好況を呈して居る。生絲輸出の都合もよく、米價も高く、勞銀も上がり、地方一般に収入が不意に増

大覺悟を要する場合



加して、生活が大に豊かになつた模様である。

然し乍ら、この經濟上の好況は、我國が、國として斯うあるべきを施設して、其の結果として斯うなつたものではなく、全く僥倖である。我國の經濟は、其の根柢が薄弱で、常に到處歎聲を聞いて居たのである。然るに他力によつて一朝好景氣が來て云つて、浮調子になり、驕奢風を作す様なことは國家發展の大氣概を持つて居らなければならぬ國民の大に恥づべきことではあるまいか。質實剛健を以て特色とすべき農村に、既に贅澤の傾向が現れ、其れが益々増長して行く勢である。此の傾向は極力防止せねばならない、極力挽回を計らねばならない。此事に就て青年團指導者が、此際青年に一大覺醒を促す様努力されんことを、希望するのである。

此の經濟の豊かなる際に、大々的に誘惑を撃退し、驕奢の風を掃蕩し、青年に眞面目に勤儉貯蓄を奨励して貰ひたい。或る地方では現に之れが獎勵に努めて居るものがあり、甚だ悦ぶべき事であるが、今國家として必要なのは、一般的に總ての青年團に

勤儉貯蓄の美風が起り、國家の時弊が此れから矯正されて行くことである。青年に此の覺悟を與へるのが、今時の青年指導の眼目である。

惟ふに歐洲の戦争が終れば、各國が戦争の爲に費消した所を復舊するに熱中すべきは必然の事である、即ち物質的の復舊を計る爲に、各國の間に激烈な競争が必ず起つて來るに相違ない。鐵血を以て争ふた後には極めて激烈な經濟戦争が來るのである。従つて各國共大いに保護政策をとるに至るべきことは明かである。即ち關稅を高くして自國の生産を保護する。さうなると日本の貿易に重大なる打撃の來るのは疑ひない事である。即ち我が好景氣の經濟狀態に大頓挫を來たし、濫手に粟に慣れた經濟界の大反動は、此時に起るのである、商工界の不景氣が來る。農村疲弊の歎聲が高くなる其れは今に於て豫斯すべきことであらうと思ふ。今僥倖の好景氣に浮調子となつて居て、この來るべき反動の場合に、周章して騒いでも其れは既に晚い。其際に對する覺悟が、今必要なのである、今の好都合の時に、盛んに勤儉貯蓄の思想を涵養し、今の時



に大準備をなして置く事が、急務と思ふのである。

以上は物質的方面から見て、青年及び指導者の大覺悟を要求したのであるが、今一つ精神的に青年の覺醒を促さなければならぬことがある。其れは歐洲大戦争の終局即ち講和の時に於ける、我國の立場に就てある、過日來全世界に講和の聲が響くやうになつた。即ち講和風が吹き出した。此の講和の聲で直ぐ眞の講和が出来る様になるとは信せないが、然し斯う云ふ聲が高くなると、交戦國の人心に緩みを生じて來て戦争の張力が抜ける。一旦此の現象が顯れ來つた以上は、戦争の終局が意外に早くなるかも知れない。勿論何人も戦局の前途を豫測することは出来ないが、講和が早晩來るかも知れないと豫期して、大に覺悟をせなければならぬことと思ふ。

而して講和の結果如何は、我々の豫測する限りではないが、大體から觀察すると、歐洲の本土に於ては、均勢を保つやうになりはすまいか。獨逸が充分に叩きつけられて、屈辱的、降服的に講和を申出るやうになれば仕合せであるが、さうでないと思ふ。

と、歐洲の均勢で講和になるかも知れない、歐洲本土の均勢と云ふ事で考へて見ると殖民地は何うなるかと云ふ問題が起る。此の問題になると、露國も佛國も、伊太利も餘り痛痒を感じない。殖民地問題は主として英吉利と日本との問題である。而して英國は、其の占領した殖民地を、己むを得ず返すことになつても、其れが英國の運命に大打撃を蒙るといふ様なことはなからう。即ち英國は殖民地返還を非常な苦痛とは感じまい。斯かる場合に大打撃を感じるのには獨り日本である。若し獨逸の要求を容れて殖民地を獨逸に返す事になれば、我國民の血を流して取つた膠洲灣は何うするか、南洋諸島を何うするか。

其の場合に日本は、其の講和條件に反對せざるべからざる立場となりはすまいか。日本の要求を貫徹せしむる爲に聯合側で鋒を取つて再び起ることになるであらうか、何うか、大疑問が此にあるのである。斯ういふ場合に國民は何うするか、一大覺悟が必要ではないか、其時に國民の意氣が衰へて居たらば何うであるか。青年の意氣が振は



なかつたら何うであるか。此の形勢をよく考へて、指導者は青年の意氣元氣の衰頹を防ぐに大いに努めて頂きたい。戦争終局に當つて、日本が如何なる場合に遭遇するかも知れないと云ふ事を、指導者諸君が、十分に深く考慮せられて、自ら意氣を旺にし、其意氣を青年に移す事に努めて貰ひたい。

斯の如く、物質的方面から考へても、精神的方面から考へても、今日は實に青年團なるもの、價値を實際に試めすべきの時である。斯かる時に臨んで、大覺悟を以て準備し、愛國の意氣を旺んにするといふことが、青年團の大義務であり、指導者諸君の大に考へられねばならぬ事であると思ふ、我々は今日の大勢を考慮して、何處までも輕浮驕奢の時弊を破つて行きたいので、切に諸君の努力を希望する次第である。

### 平生の覺悟

余は常に體育と云ふことは決して忽にすべからざることであると主張して居たが、

昨今各方面に於て大分機運が向上して、體育の奨励も漸次具體的になつて來たのは甚だ欣ぶべき現象である。即ち其徴候は徴兵検査の上に現はれて、昨年の検査の結果は一昨年の結果に比して、壯丁の體格の向上して居ることを示した。本年も徐々検査が始まるのであるが、本年は昨年より更に良好なる徴候を見るに違ひないと、實は楽しんで居る次第である。

凡そ一國民の體育の消長は、以て其國民の元氣如何を卜することが出来る。其國の體育の旺盛なることは、即ち其國民に元氣の充實して居ることを意味する。其國民に元氣の充實して居ることは、即ち其國の盛運を語るものである。

今歐羅巴各國は大戦争の最中であるから、自然體育に重きを置いて、之を奨励して居るが、中にも獨逸は最も盛んに行つてゐる。獨逸では今は皇帝の勅令を以て、全國の各都市乃至は町村に向つて、殆んど強制的に青年中隊を組織させて居る、之に對抗して露西亞は、獨逸より旺んに一時は體育奨励をしたが、平素あまりに體育などいふ



ことに意を用ひず、其場に望んで俄に騒ぎ出してもその効果の擧るものではない、國家危急の際に於て、俄に體育を奨励するやうなことは、戰時に於ける軍隊教育の力の不足を僅かに補ふに止るものである。體育奨励といふことはそうゆふ狭い意味のものではない。

一體々育の奨励に就ては平素から其方法が組織的に出來て居つて、其實行が確實で且つ其効果が年々の統計に少しづつでも表はれて行かなければならぬ。露西亞のやうに、盜賊を捉へて繩を縛ふ様な觀のあるのは、以て平生の準備の不周到であることを表明するものである。今危急の場合になつてから初めて取掛るといふことは、取り掛らぬには勝るかも知れぬが、遅い。平生の覺悟と準備の無いものは、驚破國難と云ふ時に、恢復すべからざる失態を演ずるやうになる、即ち國難に備ふることが出來ぬのである。國難に備ふることの出來ぬといふことは、其の國の強くないことを現はすのである。吾々は最近の露西亞の有様を見て、之を吾々の教訓として、平生から體育を

奨励して、國民の腦裏に國民皆兵の精神を徹底せしむることに努力しなければならぬと思つて居る。

自分は、露西亞が如何に體育を苦心奨励して居つたかと云ふことに就て、曾て露西亞の某方面に従軍して居つた友人から受けとつた書面がある。此書面を見ると、如何にもそのやり方が窮したやり方であるかの如く見える。平生の準備が足らぬと勢ひ窮したやり方に出でねばならぬのである。此書面を一讀せられたならば、大いに參考となるだらうと思ふから、此に其の全文を御紹介することとする。

### 露國に於ける國民軍事豫備教育

在露國出征軍 △ △ △ △ △

今次の歐洲戰役中、切實に國民皆兵の必要を感せしめ、之と同時に國民全般の體力を向上するの必要を認むるに至り、客年露國に於ても、露西亞帝國人民體力發育總監

露國に於ける國民軍事豫備教育



督局を設け、全國民體力の完成を圖らんとし、既に各主要都市には、體育協會、軍事體育委員會等の設立せらるゝあり、而も逐次召集徵募せらるゝ在郷軍人及び新募兵の體力往々にして、現時の軍事的要求に應じ難きものあるを以て、露帝陛下は客年露歴十一月十八日、大臣會議の決議を裁可せられ、内務大臣の統轄下に、體力の發育及此種遊技に關する公共團體の爲め、一般の規則を制定し、各地方長官は該準則に基き、體力發育の目的を有する協會の教令を編纂すべき旨發布せられたり。次に客年露歴十二月八日、更に露帝は體育動員に關する條令を裁可せられたり、該條令の要旨は、徵募若くは召集に應ずべき義務あるものに對し、豫め應召前軍事的豫備教育を施し、國民の軍事的訓練を行はんとするにあり。而して壯丁若しくは在郷軍人が、進んで該教育を受くべき獎勵法として、該教育修了者は、入隊後少尉補學校若くは下士教習所に入學するに當り特典を附與せらる。既に露都中央體操劍術學校に於ては去る一月十八日該教育修業第三期生を卒業せしめ、目下第四期生教育中なり、其教官は素より陸軍

將校にして、露都のものは午後八時乃至十一時毎週二回、莫斯科のものは一週八時間にして六週間卒業とし、教官の稱呼を得んと欲するものは尙ほ六週間の補習を要し、教育の爲め勿論何等の費用を徴收せず。教習生は各校に依り多少の別あるも通常十四歳乃至四十歳の男子とす。輒近益々召集人員の増加を要し、且つ將來に亘り軍の補充員素質の良好を期せんが爲め、豫め應召員の豫習軍事教育を必要とし、去る二月二十六日内務大臣は各府縣知事に對し、之を獎勵する爲め、一の訓令を發せり、其要旨左の如し。

強盛なる敵と相對し、一年半有餘連續せる戦闘は此敵に對し終局の全勝を得んが爲めには軍事的威力を維持し、且つ之を堅韌ならしむる爲め、國家の全力を緊張せしむるの必要を感じたり。

剛勇なる露國軍は、絶えず新戰鬥員を以て損耗を補充するを必要とす。而して補充員の素質及軍事勤務修得の迅速は、戰場に於ける全般の成效を達する爲め、著し



き影響を有す。然るに新に召集せられたるものは其の體力の發育、忍耐力及軍紀に於て必ずしも現時戰爭の要求する條件を充足すべき程度に非らず。兵役義務遂行に該當すべきものに對し、爲し得る限り軍事勤務に關する素養を與へ且つ軍隊に於て行ふ可き教育を短縮せしめんが爲め、一九一五年十二月八日勅裁を経たる體育動員條例を以て、壯丁に對し召集前の豫習教育を行ふこととなれり、該條例の根本的的は、壯丁をして軍陣生活の知識及要求並に軍事勤務上の軍規を修得せしめ、絶えず勢力を發揮し精神を豪壯ならしめ、且つ將來の兵士たるべき各人をして、皇位及祖國に對する自己の義務を感得せしめんとするに在り。召集前軍事豫習教育を受けたるものは、爾他の一般的教習兵（戰鬥上の勳功を有するもの、嘗て戰鬥に従事せしもの、及學校教員たりしものを除く）に比し歩兵の少尉補學校に入校する特權を有す。但し該校入學の爲め要する規定の條件を備へざるべからず。其の他尙ほ長官の承諾を経ば爾餘の條件同等なるものに比し、先づ下士

教習所に入校し得る特權を有す。

本大臣は汎く召集前軍事豫習教育の趣旨を實施するを以て極めて緊要なるものと認め、各地方長官に對し、速に一般人民に對し體育動員條例の根本的的及豫習教育修業者に附與せられたる特權を周知せしめ、同時に此の重大なる國家的任務に服する公共團體及個人に對し、地方長官の關係すべき諸般の幫助を行ふの措置を取らんことを希望す。

此の如くして國民全般の軍事的訓練を獎勵すると同時に、露帝陛下は前記體育動員條例に基き、軍隊に召徴せらるべきものに對し、召集前の豫習教育を與ふる件に關し特に有益なる事業を行ひしものには、曩に一九一四年制定せられたる動員有功章を授與すべき旨裁可せられたり。



## 精神を緊張せしめよ

諸君は西比利亞の地圖を見られたか、見てどんな感<sup>かん</sup>を起されたか、必ずや何等かの感<sup>かん</sup>を起されたことと思ふ。浦鹽からチエリヤビンスタまで約四千哩に亘る西比利亞一帯の地に、敵國の俘虜がどんな具合に配置されて居るかといふことは、彼の地圖でよく御判りになつたことであらう、又彼の地方は滿洲より氣候も寒く、食糧も日露戰爭當時のやうに到る處にあるといふ譯でない。勿論彼の地を以て全部戰場であるといふのではないけれども、更らに大なる軍を起して吾々の本分を盡さねばならぬ状態になるやも圖られぬ目下の形勢であるから、在郷軍人たるものは、彼の地方の大體の關係を一通り會得して置くことが必要である。従つて此の事は單に分會の役員諸君のみならず、汎く會員一般に對して西比利亞とは大體如何いふ所であつて、敵國の俘虜軍

はどんなところに居るのであるかといふ位のことには知らしめて置くの必要があると思ふ。

さて歐洲に於ける戰況は、近來西方にありては聯合軍は非常なる勢にて猛烈なる攻撃をなし、獨逸軍はまた必死の防禦を試みて居る状態で、數ヶ月になるが、勝敗は猶ほ不明である。萬一不幸にして聯合軍側が不利の結果となつたならば、直ちに日本に容易ならぬ關係が起るのである。そうなれば我々は諸君と共に斷乎として起たねばならぬことになるかも知れぬ。それゆゑに、前にも述べた通り何時、何事が起つても狼狽せぬやう、また累を殘さぬやう用意して置くべきである。それが平生のたしなみといふものである。此際は第一に在郷軍人の氣を引き立てることが大切である。在郷軍人の精神が緊張すれば延いて國民の精神が緊張するのである。國民精神の緊張は軍隊に對する無上の後援である。此の後援が無ければ軍隊のみ如何に志氣が旺盛であつても、その目的を達することは出来ない、國民の後援なき軍隊の頼み難きことは



明治三十七八年戰役に於ける露軍の狀態が的確な證據である。國民の精神が緊張し、之が青年に及び、青年の意氣が大いに振ふに至れば、それが實に強力なる後援となるのである。我々はこの強力なる後援を得て、快く本分を盡すことを得ると考へねばならぬ。

今や國民は眞面目の決心をしなくてはならぬ。日常の生活、衣食住は勿論のこと、些細の事物にも注意を拂ふて無駄にならぬやう心懸けねばならぬ。又心身の鍛錬にも氣をつけねばならぬ。殊に久しく軍務を離れて居る人は、此際一層心身の鍛錬に意を用ひ、何時何事が突發しても屈托せず、勇氣勃々として之に應ずるの用意がなければならぬ。言ひ換れば何事も戦時同様の心懸けを有たねばならぬといふことである。而してこの心懸けは自分一人のみならず、家族にもよく言ひ聞かせて會得せしめなければならぬ。家族——殊に婦人は、萬一の場合には男子に代つて後を引受るといふ覺悟と勇氣がなければならぬのである。今日の英佛獨等の婦人は、平生に於ける男子も及ばぬ健氣

な活動を爲して居るが、我國の婦人も亦彼等に比べて決して劣らぬ覺悟がなくてはならぬ。けれどもそれは平生からの修養鍛錬が必要であるから、在郷軍人諸君は平生からよく家族を戒飾して、イザ鎌倉といふ場合に、男子が劍を持つて戰場に馳せ向ひ、女子はその後を引受けて、産業でも、商業でも、工業でも、乃至は軍隊の後方勤務までも婦人が之に當らねばならぬ。これが現に歐洲戰爭の實際である。在郷軍人諸君も家族方も、一般國民もこの覺悟がなければならぬのである。

今や實に眞の舉國一致を必要とする秋である。男女老幼共に、一致して國の爲に盡さねばならぬ時節である。如何に平生多くの財産を積み、幸福の生活をして居ても、一朝國と離れてはそれに何等の價値もないではないか、白耳義や、セルピヤが實に確かな手本である。優越せる國の實力といふものがあつて初めて個人の財産や幸福も確保するもので、國破れてはそれ等は頼む可らざるものである。然るに此點を考へず只徒らに驕奢華美に耽り、放恣遊惰に流れ、平生の用意を缺いて、さて一朝事あるに



當つて蒼い顔をして大溜息を吐いたとて何になるものか。

これまで能く在郷軍人會の内容が充實せぬとか振はぬとか、種々の事をいふが、それは在郷軍人の精神が充分に緊張して居ないから起ることが多い。精神が緊張すれば分會の振はぬ筈はないのである。而して今や前にも述べたる如く、在郷軍人が先づ緊張せなければならぬ秋ではないか、役員諸君は此際熱誠なる意氣と努力とを以て會員を督勵し、以てその精神の緊張を計らねばならぬ。會員諸君亦内外の形勢と、國家の將來のことを考へて、各自の本分を盡すことに就て後れをとらぬやう、十二分の覺悟をお願ひするのである。

### 情を抑へて慾に打勝て

人間は感情の動物であるから、よく腹を立てたり、氣持を悪くし易いものである。例へば人から悪口を云はれるとか、亂暴な言葉をかけられるとか、または電車や汽車

の中などで、一寸足をふまれたりしても直ぐ腹が立つて何か不平が言ひたくなつたり悪口を言ひ返したりしたくなるものである。かう云ふ時に、腹の立つのを我慢したり、又は物を云ふべき時でない場合に黙つてゐたり、悲しい時にそれを抑へたりすることは、なかく難しいことである。けれどもその我慢にくい所をどこまでも我慢し、抑へづらいのを努めて抑へることにすると、其人は自然と上品に見え、其反對にすぐ腹をたてたり、口答へをしたり、又は人前もかまはず、泣いたり、わめいたりするやうな人は、いかにも下品に見えるものである。

人にはまたさまざまの慾があるものである。甘いものが食べたい、善い着物が着たい、面白いものが見たい、遊びたい、と云ふ風に限りもない慾があるものであるが、さういふことは一寸度を過ぎると、皆悪いことになるのであつて、程を越えないやうにするといふことが甚だ六ヶ敷いことである。殊に夜遊びをしたり、買食ひをしたり酒を飲んだりするやうなことは、一度始めると、とかくそれが習慣になり易く、いよ

情を抑へて慾に打ち勝て



習慣になつてしまふと、其慾は段々につのつて來て、止めやうと思つても、なか  
く止められるものではない。

ところがかういふいろ／＼の慾を我慢して、情を抑えて行くことは、人が立派な人  
間として世の中に生きてゆく上に大切であり、勿論立身出世をしようとするには、甚  
だ肝要な事である。此二つの充分に出来ない人は、兎角物事に不平を起したり、世の  
中の種々の誘惑に負けてしまつたりして、遂には身を誤つたりすることになり、思ひ  
も望もどう／＼遂げられぬことになるのである。つまりこの二つは忍耐と云ふことの  
基になるものであつて、これが立派に出来ない人は、何事も耐へ忍ぶことも、我慢す  
ることも出来ない人である。だから人は青年の時から人に向つて直ぐに怒つたり、物  
事に不平を起したりしないやうにして、出来るだけ情を抑へることにつとめ、又一生  
懸命に慾に打ち勝つて、夜遊びだとか、買食ひだとか、酒を飲むといふやうなことを  
決して始まないやうにし、既に夫れを爲した事の有る人は、それが眞に悪い癖とならぬ

中に、只今から斷然止めてしまはなければならぬ、さうしてどこまでも上品な立派な  
人間になつて、君の爲國の爲にお役に立つやうになることを心懸けなければならぬ。  
君の爲、國の爲に立派にお役に立つことの出出来ないものは、人としての價值も少く、  
生き甲斐のない人である。

### 名譽は生命よりも重い

船長といふものは、萬一船が沈むことになつた場合には、自分一人は最後まで船に  
とまつて居て、婦人や小供は勿論、他の人々が皆安全に助かるまでは、船を去らない  
ものである。それは何故であるか、船長といつても生命は惜しいものである。他の人  
の生命が貴いと同じことに、船長の命も貴いものである。それに何故に船長は、他の  
人々が安全だと見込をつけてからでなければ、船を逃げ出さないやうにするのである  
か、云ふまでもなく、それは船長として自分の名譽に關はるからである。名前が汚れ



るからである。自分の身の安全といふことよりも、名譽を大切だと思ふからである。假りに若し船が沈まうとする時に、船長が一番先に逃げ出したらどうであらう、乗つて居る澤山の人々が、吾れ先にと逃げやうとして、助かるべき人も死んでしまふことになるかも知れぬ。さういふことは、船をあづかつて、澤山の人を乗せ、澤山の大事故な命を預つて居る者のすべき事であらうか。萬一にもさういふやうな船長があつたとすれば、それは最も卑怯な悪人といはなければならぬ。だからこそ船長は、皆自分の名を汚すまいとして、名譽を大切にするのである。

人には凡て名譽といふものがあるのであつて、青年には青年の名譽、大人には大人の名譽、男には男の名譽、女には女の名譽といふものがある。又職人には職人の名譽といふものがあり、役人には役人の名譽といふものがある、人は誰でも、皆その名譽を大切にすべきもので、名譽を大切にして、始めて、立派な人といふべきである。其反對に、もし青年が青年らしくなく、大人が大人らしくなく、男が男らしくなく、女

が女らしくなく、職人が職人らしくなかつたならば、その人は自分の名譽を傷けることいふものであつて、人としては甚が恥かしいことである。

名譽は皆、人が苦しい時や、辛い時に遭遇つて、始めて美しい花を開き、いよいよ立派な光を輝かすものである。換言すれば、青年が本當に苦しいことに遭遇つたり仕遂げるには甚だ辛いと思ふやうなことに喰はした場合には、それを我慢をして、見事にやり遂げるといふと、其青年の名譽といふものが、ますます立派に輝いて、本當の青年として人から尊ばれることになるのであるが、その反對に、苦しさや辛さを我慢することが出来なくて逃げ出したりなどとすると、その青年の名は汚れてしまつて、人として立派な扱を受けることが出来ぬのみか、一生の間思ふやうに何事も仕遂げることが出来ぬやうになるのである。何故かといふと、折角人からまかされ頼まれて置きながら、またそれをやつて見ようといつて置きながら、約束を守らぬといふやうな不名譽な行ひをする青年では、最早信じて頼むに足ぬといつて、世間の人が、深



く相手にしなくなるからである。二度ともう頼らなくなるからである。名譽ある立派な青年として、世間が尊ばなくなるからである。だから青年は殊の外に、自分の名に瑕をつけまい、家の名を汚すまいと考へ、そして名譽を大切に、それをますます光り輝かせて、やがては、國の名を揚げるやうにしようと言ふ心掛けで進まなければならぬ。

さうするには人は恥を知るといふことが最も大切である。恥を知るといふことは、つまり名を汚さぬやうに心掛けるといふことと同じである。義理を缺いたり虚言をいったり、正しくない行ひをしたり、卑劣なことをしたり、情愛が薄かつたり、責任を忘れたり、約束にそむいたり、時間を守らなかつたり、禮儀を失つたり、幾度誠めても、平氣でそれを繰返したり、身分が高いとか、金持であるとかで傲慢であつたり、貧乏であり、又身分が賤しいからとて卑怯であつたりすることは、それは皆本當に恥を知らぬといふものであつて、恥を知らぬものは、人の皮を着てゐる畜生といふべきもので

ある。いや畜生よりかすつと劣つたものである。

けれども恥を知る心の強いものは、どんな不幸な身であつても、人のふむべき道に叛いた行をして身を汚すといふことなく、心がいつも清淨潔白であつて、慾心が深くなく、義理を大事にして不義理をにくみ、若し不義理をしなければならぬやうな破目になつたとすると、不義理をする程なら、死ぬ方がまだといつて、死んでお詫びをするといふやうな立派な心掛けを持ち、聞いた文だけでも胸のすくやうな美しい行ひをすることが出来るのである。昔の武士は、かういふ場合には、よく切腹をして義理を立て、かりにも卑怯未練な振舞はしなかつたのである。

昔から日本人が、君の爲め、國の爲め、命も身も犠牲にして眞心から自分の本分を盡すことを怠らなかつたといふのも、つまりは此の恥を知り名譽を大切にするといふ心が強いからのもので、それが日本の爲めになり、國は割合に小さいながらも今日のやうに榮えて來たのである。だから青年は常に恥を知り名譽を大切に、いま此處



で自分が命を惜しみ、臆病なことをすると恥になる。自分の恥ばかりでなく末代迄の恥となる。國の恥になる。その代りにこゝで潔く死につけば、よしや自分は死んでも、立派に自分の本分は盡されるのみか、名が光る、家の譽になる、村の譽になる、國の美しい名があがるのだと考へて、折角の大事な場合に、かりにも卑怯未練なことがないやうにしなければならぬ。

けれどもこゝで忘れてならぬことは、本當の名譽といふものは、めい／＼が自分のすべきことを盡してから後で、始めて光り輝くもので、それを受ける値がなくて受ける名譽は本當の名譽でなく、一時の假りの虚の名に過ぎぬといふべきである。假の名は直ぐに箔がはげてしまふが、本當の名譽はいつまでも光り輝き、底から澄みきつていよ／＼香が高くなるものである。

人はまた無暗に名譽心に煽てられると、本當の名譽と、一時の虚名との差別がつかぬやうになつて、人の功名をねたんで、それに傷をつけやうとしたり、又は自分の功

名を人に誇つて、傲慢無禮になつて人を輕侮したり、功名争ひをしたり、自分の功名に不平を起したり、すねたり、人の裏をかいたりすることがあるものであるが、それは恥を知らぬ者のすること、却つて自分の名譽を汚すといふものである。

人が自分の行に對して、いろ／＼と悪い評判を立てやうとしたり、名譽を傷けやうとするやうなことがあつても、それには時々誤りがあるものであるから、自分の眞心に考へて、やましい所さへなければ、人の評判などに心を動かされることなく、過があつたら、直ぐに恥て悔改め、どこまでも卑劣な心を制して、正しい行をするやうに心懸けねばならぬ、そして平生からさう云ふ固い決心をもつて居らぬと、うか／＼と人の甘い口に乗せられたり、利益を見せつけられたりすると、いつとはなしに深い淵に沈んで、浮ぶ瀬のないやうなことになるものである。だから、諺にもあるやうに、人には、どんなに渴しても斷じて盗泉の水を飲まずといふ意氣がなければならぬ。恥を知り名譽を重んずる上にはこれが甚だ大切なことである。實に人は一代名は末代、



卑怯未練な行爲をして長生するといふことは、立派な人としては最も淺ましい賤むべきことで、それより恥を知り、名を重んじて、君國の爲めに死なねばならぬときには、恰度櫻の花のやうに潔く散つて、名を汚さぬやうにするのが、眞の日本男兒であることを忘れてはならぬ

## 鐵石のやうな心で志を貫け

昔希臘のアレキサンダーといふ大王は、手下の一人の士官に命令して、或る城を攻め落させやうとした。ところがその士官は、「どうも私には出来ません」と答へた。すると大王は大聲をあげて「やらうと決心したものに出来ないといふことがこの世の中にあるものか」と云つて自分から兵を指揮して、見る／＼中に敵を追拂つてしまつたのである。

また今から百年あまり以前に、佛蘭西のナポレオンは、味方が、伊太利で大變に困つて居ると聞くと、急いでそれを助ける爲に、アルプス山の中の、サン・ベルナアーといふ險しい山を越えて、伊太利の方へ出ようとして、その部下に様子を探させたのである。アルプス山といへば世界中でも名高い險しい山で、兵隊を引きつれて之を越えるといふことは、昔から出来ぬことと思はれてゐたのである。部下の士官は躊躇しながら答へた「大方出来ないかも知れませんが」と云つた。するとナポレオンは「出来ぬといふことがあるものか、出来ぬなどいふ字は字引からどりのけてしまへ、進め進め」と云つた。英吉利軍も奥太利軍も、ナポレオンが軍隊を引きつれて、アルプスを越えやうとすると聞いて大いに笑つたのである。けれどもナポレオンは、六萬といふ大勢を引きつれて、加之大砲や種々の武器をもつて、此山を越えよと命令したのである。そしてやつてみると、二十哩といふ長い列になつたが、一人の兵も隊を離れないで四日の後には全體の軍が見事に伊太利に出ることが出来たのである。

かうゆふ例は、つまり人はやらうと決心して、鐵のやうな意思と勇氣とを以て進め



ば、世の中に出來ぬといふことはないを云ふことを訓へたものである。實際自分から本當にやらうと思つたら、世の中に出來ないことはなく、出來ないのは自分から本氣にやらないからである、やり方に熱心と注意と意思と勇氣とが足らぬからである、やり方が悪いからである、途中で止めるからである、間でどんな苦しいことがあらうとも、どんな不幸に出遇はうとも、一旦志したからには、いよく勇氣を出し、益々堅い意思で、注意に注意を重ねて、倒れるまで熱心にやり通ほせば、どんなことでも、決して出來ない理はないのである。倒れるまでやつて出來ないといふことは世の中にない筈である。

だから青年は何事にか志を立て、自分のやらうと思つた事を、必ずやり通ほす考で、倒れるまで續けてやるがよい。何だか出來さうにないからやつても駄目だとか、やりかけるのも恐ろしいなごいふ考をかりにももつてはならぬ。青年は、さう云うやうな意思の弱いものであつてはならぬ。青年の時から、さう云ふ意思の弱いやうでは

生きてゐても何にもなるものではない。

また人が志を立てるには、年をとつてからでは、思ふやうにそれをやつて行けぬものであるから、青年の時に、何か一事をして、一人前の立派な人間にならうと、しつかり決心しなければならぬ。學問もしたいがするのは苦しい、修養も積んでみたいが面白くない。働くよりは何もせずに、ぶら／＼と遊んで暮らした方が面白い。立身出世もしたいにはしたいが、早く甘い物が食いたい、遊びたい、我儘がしたい、贅澤がしたい、雨が降るから學校に行きたくない、友達等と戯談をいふ時には夢中になれるが、親の教や、人の言ふことなど聞きたくもない、學ばんでも、働かんでも、修養を積まんでも、まよよ、成るやうになれなごい考える青年は、本當の青年でもなければ男らしい男でもないのである。

けれども人は何かやらうと決心する前に、先づ、自分の才能が、それに向いて居るであらうか、身體はごうであるか、財産は足るか足らぬか、それが成し遂げられる境



遇にあるかどうか、と云ふやうなことをよく考へてかゝらねばならぬ。書のかけないものが畫家にならうとしたり、身體の弱いものが軍人にならうとしたり、金の足らぬ者が金のかゝるやうな仕事をしやうとしたりするのは無分別といふものである。これなら立派に出来るかどうかといふことを、いろ／＼の方面からよく考へて見、人にも聞き合せてかゝらなければならぬ。そしていよいよ志が立つたら、かりにも幸運に巡り合せたいなどいふやうな、淺はかな考をすてし、どこまでも自分の腕でやり上げるといふ堅い意思でかゝらなければならぬ。中途で横道に良さそうなることがあるからといつて、その方に心を移したり、折角やりかけてから意思がぐら／＼したりするやうでは、決して何事も出来るものではない。

### 武士に一言はなかつた

昔は武士には二言はなかつた。一言いつたら必ずその通りに行ひ、ごんなことがあ

つて、國家的觀念が後廻しにされるからである。従つて國家の爲に自の權勢利益を犠牲に供さなければならぬ場合が起ると何時も躊躇する。先年の有様を見ても、張勳が獨斷的に復辟を行ひながら、一度形勢不利なりと見れば、前に申合はせた人々は更らにその約束を履行しない。續いて段祺瑞が張勳の復辟を討滅した。是で治るかと思へば、今度は段祺瑞に反對の人々が邪魔をするから統一する事が出来ない。斯う云ふ有様であるから、支那の前途は今の所殆んど見据えが付かぬ、云はゞ甚だ悲觀すべき状態に在るのである。

或る人は、斯の如き支那の状態を目して、新舊思想の衝突だと云つて居る。なる程新舊思想の衝突には相違ないが然らば新舊何れの思想が支那の國情に適するか、又何れの思想を以て支那を統一し得るかと云ふと、之は理屈や議論で出来ることではない國民に犠牲的觀念のある事が第一の要件である。即ち共同の觀念である。國民に共同心が乏しいといふことは、是れ應て國を危くする所以である。今日の支那が即ち夫れ



遇にあるかどうか、と云ふやうなことをよく考へてかゝらねばならぬ。書のかけないものが畫家にならうとしたり、身體の弱いものが軍人にならうとしたり、金の足らぬ者が金のかゝるやうな仕事をしやうとしたりするのは無分別といふものである。これなら立派に出来るかどうかといふことを、いろいろの方面からよく考へて見、人にも聞き合せてかゝらなければならぬ。そしていよいよ志が立つたら、かりにも幸運に巡り合せていたなどいふやうな、淺はかな考をすて、どこまでも自分の腕でやり上げるといふ堅い意思でかゝらなければならぬ。途中で横道に良さそうなおことがあるからといって、その方に心を移したり、折角やりかけてから意思がぐらくしたりするやうでは、決して何事も出来るものではない。

### 武士に二言はなかつた

昔は武士には二言はなかつた。一言いつたら必ずその通りに行ひ、そんなことがあ

# 欠



# 欠

つて、國家的觀念が後廻しにされるからである。従つて國家の爲に自の權勢利益を犠牲に供さなければならぬ場合が起ると何時も躊躇する。先年の有様を見ても、張勳が獨斷的に復辟を行つながら、一度形勢不利なりと見れば、前に申合はせた人々は更らにその約束を履行しない。續いて段祺瑞が張勳の復辟を討滅した。是で治るかと思へば、今度は段祺瑞に反對の人々が邪魔をするから統一する事が出来ない。斯う云ふ有様であるから、支那の前途は今の所殆んど見据えが付かぬ、云はゞ甚だ悲觀すべき状態に在るのである。

或る人は、斯の如き支那の状態を目して、新舊思想の衝突だと云つて居る。なる程新舊思想の衝突には相違ないが然らば新舊何れの思想が支那の國情に適するか、又何れの思想を以て支那を統一し得るかと云ふと、之は理屈や議論で出来ることではない國民に犠牲的觀念のある事が第一の要件である。即ち共同の觀念である。國民に共同心が乏しいといふことは、是れ應て國を危くする所以である。今日の支那が即ち夫れ



で、支那人は常に自分の利害から打算して忽ち不徹底な妥協をして仕舞ひ乍ら、而も軍人と云はず、官吏と云はず、實業家と云はず、あらゆる階級を通じて共同の精神、犠牲の觀念に乏しいから、何時も自己の涉利の爲に國の大事を誤つて居るのである。去り乍ら之を支那と云ふ一外國の事として、對岸の火災視することは大いなる誤りである。日支兩國の間は、段々と利害体感相近づいて來て居るのであるから、國民的共同心の乏しいと云ふ事を以て、支那國民を蔑視するよりは、何故支那が斯う云ふ事になつたか——即ち支那は昔から國民精神の陶冶に意を用ゐなかつたから斯う云ふ紛糾状態に陥つたのであると云ふことを考へ、之を他山の石として自ら警めなければならぬのである。今日歐羅巴に於ける交戦各國の状態を見ても、吾々の敵國たる獨逸が、今日迄克く困苦缺乏に堪え、上下一致して國難に當つて居たといふことは、是れ即ち國民の鍛鍊に重きを置いた結果である。所謂國民教育は即ち國民の鍛鍊であつて我が青年團の事業も是れ畢竟國民の鍛鍊に外ならぬのである。

之を佛蘭西に見よ、彼の人口の少い國が、歴史的の權威を墜とさす、克く其の粘力を繼續して居るのは、一面個人思想の發達した國であるが、一面に國民の鍛鍊を怠らなかつた結果である。更に之を我が倭國露西亞の今日の混亂状態に見るならば、誠に思半ばに過ぐるものがある。又英吉利などは、戦争前には何と云はれて居たか。英吉利の中流以下の國民は世界中で一番墮落した國民で、愛國とか國家とか云ふ觀念は露程も無く、一日幾何の勞銀を得るといふ考へより外にない。夫れが爲に英帝國の統一結合も漸次弛みを生じて來るだらう、英吉利も段々老國になつて、其國の力は軍艦といふ物質の力のみであつて、國民そのものには何等の威力がない、と斯く迄獨逸人などに云はれてゐたのである。それが近來大いに覺醒して、嘗て自由中毒に罷つてゐると稱せられた英國に既に徵兵令が布かれ、國家的の思想が湧き起つて、彼の老衰國は今や立派に血氣旺んな國に若返つた觀がある。是は申す迄もなく今度の戦争が英吉利國民に大いなる鍛鍊を加へた結果である。



斯の斯く國民の鍛鍊を怠ると否とが、其國の將來を如何に導くかと云ふ事に就て、今や澤山の證據が吾々の前に現實されて居るのである。我が國民たるもの大いに努めなければならぬではないか、而して最も大事なるは今日である。將來吾々と競争すべき對手の國々は、今や方に、遺憾なく國民鍛鍊の實物教育を受けつゝある。而も彼等は非常な努力を以て戦後の大競争に打勝つ準備をして居る。是に對して日本は、幸か不幸か今日迄所謂眞に國歩艱難といふ境遇に起つた事がなく、國民に實物教育を與へる機會が無かつた。殊に近來は、却つて歐羅巴の戦争が思ひ掛けなくも日本の經濟状態に好影響を與へた爲に、國民の僥倖心を高め驕奢華美の風を助け、國民の鍛鍊どころか寧ろ正反對に國民を軟弱にし、國民の意氣を消沈せしむる傾向が見えるではないか。

斯ふなつては最早一通りの努力では追付かぬ。此の頽勢に逆行して、國民に大鍛鍊を加へ、將來何れの國民と競争しても、之に打勝つ丈の覺悟を極めて掛らなければならぬ。即ち交戦各國より以上に、積極的の努力をしなければ、今日迄之に依つて國運の發展し來つた陛下の大御稜威を一層世界に赫かすことは出來ぬのである。

茲に此度の支那行で、一寸奇異の思をしたのは、支那の青年團であつた。既に支那にも國民鍛鍊の忽にすべからざることに氣付いて、立派な青年團を組織した人があるのである。私が博山縣及天津に行つた時に、軍隊に續いて多數の青年團員が、一定の服装を着けて並んで居つた。聞いて見ると、私の著した『社會的國民教育』と云ふ本を支那の日本人の解る人達が讀んで、始めて青年訓練のことに氣が付き、俄かに行り出したといふことである。而して天津を中心とする直隸省内では團員の數が既に三千人にも上り學業の餘暇に盛んに兵式訓練を施して居るといふことであつて、其の成績も段々良好であるから、追々他の省にも及ぼすと云ふ話であつた。



## 米國に於ける國民教育の急變化

世人は、米國と云へば、極めて平和主義の國で、其の國民教育も、偏に物質主義に行はれて居て、護國の精神甚だしく缺乏して居るかのやうに想像する傾きがあるが、其れは實に誤つた想像である。予の知人で、數年間米國に在り、其の國民教育の實況を観察して、近頃歸朝した人の話によると、歐洲大戰の結果、米國の國民教育の變化は驚くべきものらしい。左に其の知人の記したるものを紹介して、我國の青年及び青年指導の任に在る諸君の參考に供したいと思ふ。

『最初米國へ着いた頃は未だ歐洲大戰前で即ち平和の亞米利加であつたから、小學校の教育は所謂自由主義で、例へば授業の始まる時に振鈴が鳴ると、兒童は吾れ先きに教室に飛び込んで教師が來ても日没後の蛙の様にがあゝと騒いで居つて、教師も亦敢て之を静めやうともせず授業を始めるのであつた。所が最近余が二三の小學校を訪

問して見ると、始業の鐘が鳴るや否や、兒童は校庭の所定の位置に各級毎に四列側面縦隊に整列して、教師の號令で足並揃へて教室に繰り込むのであつた。随分急激な變化である。それ許りでなく町なご歩くと四尺許りの檉棒を銃の様に携いで隊伍整々行軍をする小學生隊に屢々出會ふやうになつた。一部の宗教家等には兵式教練を小學生に施す事に反對する者もないではないが、政治家や教育家は大に獎勵して居つて、現に昨年七月四日の獨立祭には大統領はワシントン府の小學生より編成せられたる少年義勇團の觀兵式を行はれた。白耳義や塞爾比亞の悲惨な境遇を見てはちつとして居られなくなつたと見える。それからもう一つ見逃す事の出來ぬのは、米國が國旗を中心として如何に國民の精神的統一を計るに汲々たるかである。

亞米利加の學校では毎朝授業開始前に學校の小使が校舎の屋上高く國旗を掲げ、午後之を降すのを常として居つた。それが此頃は、朝夕掲降の時校長以下全校の職員兒童全部校庭に整列して、校長若しくは生徒中の模範生が之を掲降し、其時兒童等は最



も敬虔なる不動の姿勢を以て國歌を合唱するのである。丁度海軍の軍艦旗を掲降する儀式と同様である。

次には亞米利加の少年義勇團である。一體少年義勇團の起原は英國で、四五年前には米國には義勇團等云ふものは影も形も無かつた。それが最近三四年の中に非常に發達して、太平洋沿岸地方に於いても大抵の町村には皆之を設けることになつた。昨年九月には團員の數約百萬人に達したと云ふことである。更に中學程度の學校を見るに元來米國では日本の中等學校の如く兵式體操を課する學校が尠く大正二年には全國で五千五百五校中僅かに八十二校のみ軍事教育を行ひ、其生徒數が約九千五百程であつたが、最近に及んでは米國四十八州の内殆んど大半は州法に依つて中等學校に軍事教練を課するやうになり、盛んに身心の鍛鍊を行つて居る。政府は此等の學校へは一八九八式の銃器を貸與し、民兵の士官は銳意青年の訓練に従事して居る。余は彼等の野外演習や行軍等を屢々見學した。勿論教練の熟否に至りては、敢て問ふを要しないが

唯彼等の眞面目の程度、獻身の誠を認めざるを得なかつた。

それから最も著しきは大學に於ける軍事教育である。諸君の御承知の通り米國の現役兵は全く其の素質が善くない。故に一朝有事の際には護國の大任は是非とも民兵の力に頼らなければならぬ。而して此等民兵の幹部となる者は大學の卒業生であるから政府も人民も學生自身も實に眞剣である。腹減らしの兵式體操などは霄壤の差があるのである。大學の第一、第二年生は義務として軍事教育を受けねばならぬ。第三、第四年生は任意としてあるが其の三分の一以上は自ら志願して軍事教育を受けて居るのである。此等の大學は其成績により四等級に級別し、第一、第二及び第三級の學校へは、陸軍が現役將校を派遣して其訓練に任じて居る。

銃器は第一級の學校へは千九〇三年式といふ日本で謂へば三八式歩兵銃に相當するものを、第二、第三級の學校へは、千八百九十八年式と云ふ日本の三十年式歩兵銃に相當するものを貸與し雜糞だの水筒だの天幕だのと云ふ物は一切陸軍から無償で貸與



し、尙ほ彈藥を政府から無料で支給して、其彈藥費のみが従前には約六萬圓であつたが、昨年からは十二萬圓に増額されることになつた。

それで第一級の學校の學生は各人毎年實彈を百二十發狹窄彈を六十發を射撃するこゝが出来た。第二、第三級の學校には射撃用として千九〇三年式の現用銃を若干挺づゝ貸與し學生は毎年三十乃至四十發宛射撃することが出来るのである。諸君是れでも米國は黄金萬能主義であるか、非軍國主義であらうか否な余は米國に於て始めて全國皆兵の眞精神を認むることが出来たのである。是等の大學に於いて軍事教育を受ける學生の數は、大正二年即ち歐洲戰爭前迄は約三萬八千人、大學の數が百十七校あつたが、戰爭勃發後は頗るその數を増加した。殊に面白き現象は私立大學が競ふて軍事教育を始める傾向である。

次に他の外國に於いて見るこゝの出来ない仕組みは夏期野營演習と謂ふものである。此れは夏期休業を利用して國民に軍事的生活を爲さしめ此れによりて第一には國民の元氣體力の養成を計り、第二には一朝事ある時の準備をするのである。其會員は主として大學卒業以上の紳士及大學中學等の學生であつて毎年夏全國に四箇所の野營地を設け、約四週間純然たる軍隊生活を行ひ最後の一週間は附近の軍隊と聯合して機動演習を行ふのである。軍隊の方では之に單に銃器や、天幕等を貸與するのみで、他に何等物質上の補助を與へない。即ち會員は費用一切自辨で辨當手前持、無料働と云ふ形式である。

昨年夏此の演習に参加した會員は學生と紳士とが略半々であつた。殊に紐育の野營地の如きは集る者約千八百名内千二百名は社會上地位ある紳士のみで現に紐育市長と同警視總監は一兵卒として四週間泥塗れになつて駆廻つた一人である。此年に全國四箇所の野營地に集つた愛國心の旺盛した人士は實に四千八百名に達した。紐育の夏は實に暑い、東京や熊本の夏はそれに比較すると全然極樂である。

歸朝した知人の記事は右のやうなものである。諸君、九十度や百度の暑さに恐れて避



暑だの絲瓜だのと騒ぎ立て、避暑に出掛けないと借た金を拂へないやうに氣まじ悪がる様な馬鹿者は逆も駄目だ。世界中で一番物質主義だ、黄金主義だと思はれて居る亞米利加が既に斯の如しだ。單に亞米利加のみでない、濠洲も左様だ、塞爾比亞も露國も左様だ、全世界皆然りである。油断して居ると月夜に釜を竊まれる様なことになる。併し心強い事には近頃我國青年の氣風が漸次剛健の方に傾いた來た。是全く先輩諸氏の御盡力の結果である。併し諸君何時迄も先輩の誘導のみに依頼して居る様な獨立心の缺けたことでは駄目だ、進んで自ら切磋琢磨して膽を鍊り、身體を鍛へて、以て大日本帝國の運命は我々の雙肩にありと覺悟し、帝國を護らなければならぬのである。

### 獨逸の義勇青年團

云ふまでもなく國家の盛衰汚隆の關する所は人にある。殊に國家將來の運命を背負つて起つ處の者は青年である。従つて國家百年の長計を思ふ者が、一國青年の教育に留

意努力するといふことは、實に邦家の爲め一日も忽にすべからざる大事であると共に、當然の順序として是非とも爲さねばならぬことである。處が今日我國青年教育の有様を見ると、この大切な大事が頗る忽に附せられて居るやうに思はれる。事實また青年の體力は年々衰耗して往き精神的方面の状態も亦頗る頼しくない傾向を示して居る。是れ實に國家の爲痛嘆すべき現象であると言はねばならぬ。殊に歐洲の大戦亂は延いて我國にまで及び、我大和民族の將來は益々多事多難ならうとする矢先、大いに青年に對する社會的教育事業を振起發達せしめ、以て此の多事多難なるべき帝國の將來に處し、美事に之を乗切つて國民的大飛躍を爲し得る國民を作ることは、現下の一大急務、將國家の一大緊要事である。

固より此處で云ふ青年教育とは、學校の教育を指すのではなく主に社會教育を云ふので、青年と云ふ意味も、先づ大體高等小學時代から徴兵適齡までの間にあるものを云ふのである。先年官命を帯びて歐米諸國を視察した際、傍ら各國の青年教育の現状



を視察したが、各國とも今日に於いては青年教育といふことは、單純な教育學上の問題たる域を脱して、國家の運命に直接の關係を有する實際上の問題となつて居る。で、各國共今日に於いては競つて此の國家的立場から青年教育に上下一致して其の心血を濺ぎつゝある有様である。元來斯る觀念を各國が起したと云ふことは、夫々國家的危難に迫られ、國家の存立に對して一種の恐怖心を起し、之によつて一般の國民が非常な刺戟を蒙つた爲で、この結果として各國共に今日の如く青年の社會的教育に力を入れるやうになつたのであるが、更に進んで其實際上の效果に至つては實に驚くべきものがある。現に獨逸の如きは、今度の大戰争に英佛露伊の強國を相手として一步も國內に踏み込ませず、絶えず攻勢的行動を執つて居る。而して現に戰場に立つて居る兵員、種々の守備に當つて居る兵員、其他補充部隊の兵員等を合せると、優に七百萬以上に達してゐるであらうし、其れに今日迄の死傷者俘虜を加へたならば恐らく九百萬に近い數を算するであらう。而も全國の人口は七千萬足らず、男子の數を半分と見て

二千五百萬、それで猶今日の如き意氣を示して居るのである。小學校以外の學校は悉く閉鎖して丁ひ、今日では十七歳以上の少年は續々志願して陣中勤務に服し、其他既に兵役を終つた者、一度も兵役に服せぬ者等の國民兵五十二歳迄の者も皆志願して之に加はり、今日までに百二十萬以上に上つて居るといふ。

之によつて見れば、獨逸の強いといふことは、單に軍隊が強いばかりではない。一般に國家的基礎が強固なこと、即ち獨逸魂が上下を通じて彼等の全身に溢れて居り、各自の智力能力財力の總てを國家の爲に捧げるといふ偉大なる犠牲的精神、此の偉大な力が獨逸をして今日あらしむる所以で、是れ全く多年上下一致して青年教育に努力した賜物に外ならないのである。

獨り獨逸のみではない。佛蘭西とても其通りで、四千萬に足らない人口を以て各方面の兵員は今や五百萬近くを算して居る。國會議員中二百人は創痍を裏んで議場に立ち前の大藏大臣は一中尉として戰場勤務に服して居ると云ふ有様で、青年と老年とを



問はず苟も身體を動かし得る者は皆一身を犠牲にして國難に赴いて居る。是れまた平素青年の教育に上下擧つて努力し來つたお蔭である。

御承知の通り獨逸は曾て大奈翁の爲に其國土を蹂躪せられ、悲惨なる敗者の苦痛を嘗めた。この苦い經驗は深く國民の腦裏に刻まれ、是非とも此の國民的大屈辱を雪がねばならぬと云ふことが痛切に國民の心魂に徹したのである。而してこの大任を果し得る者は實に青年の力に俟たなければならぬといふので、一意青年の教養に努力した結果は、やがて普埃戰爭の勝利と爲り更に普佛戰爭の光榮ある勝利となつて顯はれたのである。處が獨逸に負けた佛蘭西は、更にその屈辱を雪がなが爲に、自國の青年を一層健全に教育して往かねばならぬと云ふ觀念を起したのである。

處が一方首尾よく積年の怨を晴し、國勢の勃興歐洲に覇を唱へると云ふ有様になつて獨逸では、所謂勝つて兜の緒を締ると云ふ用心を忘れず、益々青年の教育に力を凝ぎ、戰勝によつて情氣を生せんとする人民に鞭撻を加へ、國民の元氣を愈々旺盛ならしめやうと力めた結果は、遂に今日の如き國家危急存亡の大事に當つて、あの様な大威力を發揮することが出來たのである。

英國が青年教育に努力するのも南阿戰爭で自國軍の腑甲斐なさを自覺した結果である。

それで各國とも、其の國狀を異にするに従つて夫々その青年教育の主義方針をも異にして居るが、茲には先づ獨逸の青年教育の現狀に就いて陳べて見やう、獨逸が近來殊に青年教育に力を入れて來たのは、一つは佛蘭西が青年に軍事的教育を施し大いに志氣を鼓舞するといふ傾向に對抗すると云ふ意味から起つたところが大きいにある。即ち獨逸には國防會及び青年獨逸會といふものがあつて、何れも佛國の例に倣つたものであるが、その青年の指導法は、殆んど軍事的に出來てゐて、殊に體力の養成に重きを置いて居る。國民意氣の旺盛思想の健全は健全なる體力に待つべきものであると云ふ考から來たもので、それ等の團體は夫々附近の衛戍地に勤めて居る將校の指導の下



に教育されて居る。此他獨逸には教育會に關係した青年教育團體も澤山ある。處がこれ等の團體の教育は餘り軍事的に偏し、體育にのみ重きを置く結果精神的方面を疎外して居る傾向があるといふので、種々の方面から反對論が起り、其の爲に近來は青年の教育は各團體各個の行動に任せて居てはいけない、之を統一して國家的に教育を施さねばならぬ、従つて其教育の目的も、體育にのみ偏せず、軍事的にのみ流れず、さればと云つて精神的にのみ陥らないやうに、宜しくその中庸を保つて體力の健全な精神の旺盛な健全なる國民、即ち獨逸魂を有つて居る國民を作らねばならぬと云ふので政府は一九一一年に從來の諸團體を統一する目的を以て『獨逸青年團』なる團體を組織する爲に一の布告を發した。其趣旨は、青年教育なるものは、心身共に健全に、規律を守り公德を重んじ、敬神の念に富み且つ愛國心の旺んな國民を養成するのが第一義である。而して両親も有志家も教育家も、教會も、總ての方面の人々が協力して之に當るといふことによつて初めてその目的を達することが出来るといふにあつた。即

ち總ての團體や學校等が互ひに協同して往くことを奨め、且つ總ての政黨政派は固より、軍部、教會、實業家等も中立的態度を執つて孰れの方角にも偏しないといふことについて初めて協同も出來、目的も達することが出来るといふのである。

此の布告が發せらるゝと共に、益々各方面の協同觀念を促進し、各階級の國民は進んで青年教育に助力し補助するといふ有様となり、其結果は、今日の如く、勤勉にして緻密に且つ規律を重んじ、負けじ魂の強い國民性を養成し得たのである。

そこで全國の團體を統一する爲に伯林に一つの本部が出來皇太子殿下を總裁に戴きフオン・デル・ゴルト將軍を會長とし、各聯邦では國王若くは世子が部分の總裁となつて居られる。而して此各地方に於ける青年團の事業は餘り本部から入釜しい拘束を受けず、前に述べたやうな大體の主義方針に基いて漸次自治的、發達を促して居るといふ有様である。同時に此の青年團は、政府の補助を受け、殊に普魯西と巴威の陸軍省は、之に特別の便宜を與へて居る。而して今や此等の團體は一萬以上に達し其會員



は非常な多數に上つて居る。其の指導者には主として將校が當つて居るが、此は軍部から仕向けたのではなく、地方人士の意向から自然さういふ風になつて來たのである。

従つて獨逸の地方などに往つて見ると、日曜日などに多數の青年が、木銃を肩にして種々の服装をして、野外に野營の眞似をしたり或は森林中に遊戯をして居るのを目撃する。而して此等には皆將校がついて居るのを認める。今一つその實例を擧げてみれば、獨逸のステツチンと云ふ町は、露國方面に近い軍隊所在地であるが、此地の青年團の主義精神としては名譽心を向上し、心膽を練り、忠君愛國の思想を鼓吹し、尙武心を發達せしむる。此がその主義で、その團員は十三歳から十八歳までの青年を網羅し、團員教育の手段としては、第一に、體操、野外演習の眞似、遊戯遠足等によつて體力の發達を計り、又時々學校に集めて常識の發達を助ける講話、若くは訓育上の話をして聞かせ、特に青年團の名譽の爲に、軍隊で觀兵式とか記念祭とかには彼等を

參列させ、五つの部隊に分けて其全般のことはステツチンの衛戍地の現役將校が之を指導して居る。軍隊所在地でない村落の青年團では其村の名望家とか學校の教師とか云ふものが之を指導して居るが、夫れは大抵在郷の將校である。

大體青年團の精神としては、ステツチンの例で云つたと同じであるが、地方によること、勤勉にして節約を旨とし、且つ自ら働いて自ら活きるといふやうな意味を特に含ませて居る所も少くない。又其指導の仕方も大抵どこも同じで、體力の發達、常識の養成、人格の向上といふことを目的として居る。少し大きな都會になると、小學校の所在地を標準として市街を區分し、各區分毎に徴兵適齡に達する迄の青年を結束し其思想行爲を放逸に流れさせないやうに教育し、教育の趣旨及び指導の方法は前と大同小異であるが、職工、給仕、徒弟等が多いから、日曜日其他の休日又は夜分を利用して職業上の教育も加へて居る。それには小學校を利用するか又は特別の學校が設けられて居て、此を獨逸人は「第一の勤勞學校」と呼び、軍隊を「第二の勤勞學校」と呼



んで居る。

自分がゴルト元帥に會つた時、元帥は「政府が國家的に統一した青年團でも、我國の風習として兎角軍事的に流れ易い傾があるが、自分としては獨逸魂の養成を主とし、根氣精力を旺んにし、規律ある勤勉な國民を作り、各々選ぶ所の職業に向つて大いに發展させ、他の國民に打勝たせて行かねばならぬ。決して青年をして皆軍人たらしめるといふ考は持つてゐない……」と言はれた。

以上は極く簡單に大體丈を陳べたのであるが、之によつても大略獨逸青年團の內容及びその根本義を知ることが出来るであらうと思ふ。

### 世界に於ける思想の變化と

#### 自給自足の觀念

今回の歐洲戦争は、總ての點に於て誠に未曾有の大戦争である。それだけ又吾々に

教訓を與へた分量も甚だ尠くない。將來は兎に角今日迄に、是れ程我々に活きた教訓を與へた事例は無いのである。そこで吾々は此の際生きた教訓に依つて、將來に對する準備をして置かなければならぬのである。

殊に吾々が今日に於て最も戒心を要するのは、世界の思想の變化である。此頃に於ける世界の思想界の有様を見ると、民主思想が大流行で、何れの國でも之を唱へなければ工合が悪い様な始末である。先達て公表された羅馬法王の平和提唱に對する米國大統領の回答を讀んだ人々は、恐らく心中に何事か疑念を起したことであらう。世界中の各國を亞米利加のやうにしなればならぬといふ理想を抱いては居らぬかと思はれる節々もある。

就中今度帝國を覆して民主國を樹立した露西亞の革命黨の如きは、自國許りでなく總ての國を民主國とする爲に、他の帝國に壓迫を加ふべしと云つて居る。彼等の所謂民主主義は殆んど社會共產主義で君主を認めず、少くとも君主權なるものを民主權を



以て壓迫しやうと云ふ考へである。さう云ふ有様だから、此の日本の、忠君の思想より生れた國家魂も、世界に超越したる君民調和を以て建國の根本義とする我帝國も、總て多方面から大なる壓迫を受くる時が來ると思ふ。

よく人は、日本人には大和魂があるといふ。ところが何々魂といふものは必ずしも日本人の專賣特許ではない、獨逸人には獨逸魂があり、佛蘭西人には佛蘭西魂がある。併も獨逸魂、佛蘭西魂は、今や未曾有の實物教育を受けて、日に月に鍛鍊を加へられ、益々銳利なる魂になりつゝある。之れに反して日本の大和魂は、兎角錆がつき易くなつて居りはせぬかと思ふ。先頃露西亞へ出した私の部下の報告を見ると、斯う云ふ話がある。露西亞の攻撃して居る正面に、埃太利の軍隊と獨逸の軍隊とが並んで居つた。此の時露西亞軍の勢頗る猛烈で、敵は遂に刀折れ矢盡き、殆んど戦ふことが出来ぬ狀況に陥たすると、其の内の獨逸の軍隊では、各自爆彈を手にして、捕虜となつて耻辱を受くるよりは寧ろ潔く討死しようといふので、其の爆彈を自分の體

へ擲げつけて、一小隊盡く飛散したといふことである。鍛鍊したる魂は實に斯の如きものである。是れに比べると、手入を怠つた大和魂は甚だ頼み少く覺えるのである。

殊に大戦に参加したとは云へ却つて僥倖續きの今日の狀態を此儘に棄て、置いたならば、將來如何なる結果を生ずるか云ふことに考を及ぼさなければならぬ。乃ち青年團の指導に當る方々は、この考から、我大和魂は一に忠君の思想より生れたる愛國心である。歐米人の如く國家は國民共同生活の集團にして、此の集團を擁護するは國民の義務にして責任であるといふ理屈で捏ね上げたものではない天子様に忠勤を擢んずると云ふことが大和魂即ち國家魂にして君民一體であると神秘的に斯く信じて居るところが日本獨特の觀念であつたと云ふことを青年の間に徹底せしむるやうにして貰いたい。是れが總ての發端となり、中心とならなければならぬのである。此の根本の思想を今よりして充分に固めて置かなかつたならば、遠からざる將來に於て、世界



の各方面から襲ひ掛つて來る思想上の大壓迫を受けた際に、我大和魂に龜裂を生ずるやうなことになる。必ずしも右様な杞憂を抱く譯ではないが、兎角安佚を貪らうとする氣風の起らんとする此の折柄大覺悟を以て青年の精神を鍛鍊すると以ふことが青年團指導上の主眼でなくてはならぬと考へる。

扱て又茲に一つ更に我が國民の大覺悟を要することがある。今回の歐洲戰爭勃發以來、日本の經濟状態は段々豊かになつて、既に十餘億圓の正貨が出來た。是は何人も豫想しなかつたことで、一面に喜ぶべき現象ではあるが又一面から云へば精神的に大に警戒を加ふべきことであると思ふ、と云ふのは元來この正貨十餘億は日本人自ら勤勞して得た金ではない。二十億の國債の始末にすら頭を悩まして居たところへ俄に戰爭が始まつてあの金が入つて來たのであつて、言はゞ濡れ手で粟を掴んだのである。斯う云ふ状態は果して人心に如何なる影響を與えるであらうか。この點は青年を指導せらるる諸君の特に注意を要する事柄である。即ち斯くして經濟状態の豊かになつて

行くことは、人心をして殊に青年團員をして、往々浮華驕奢の風を助長せしめはせぬか、否な既に吾々は事實に於て其の兆候を認めて居る。

斯る場合には一層青年に薰陶を加へることが最も大切であり、又最も大なる時世の要求であると思ふのであるが、茲にお互に考へなければならぬことは、今や歐洲列國は、既に男子の三分の一以上を戰場に送り、既に十七八歳の青年迄武器を把つて起ち國民は戰爭の爲に其全財産を傾け盡して居ると云ふ時に、同じ聯合軍に加はつてゐる日本が獨り懷ろ手をして居られるか何うかと云ふことである。私は世界が日本に斯の如き安佚の状態を長く容しては置かぬと思ふ。先頃問題になつた亞米利加の鐵輸出禁止の如きも、見やうによつては之も世界の日本に對する壓迫の一つであると思つても宜しからうと思ふ。日本としては、他の國が鐵の輸出を禁止したからといつて、之を解いて呉れと頭を下げる譯には行かぬ。頭を下げたらそれこそ國の耻辱である。そこで我々は將來斯う云ふ種類の壓迫を四方から受けることを今から覺悟しなければなら



ぬ。

一體日本は、日清戦争にも勝ち、日露戦争にも勝ち、そしてその國債に困つてゐると、今度は金が入つてくると云ふ、誠に幸福な國である。併し乍ら何時でも萬事がこんな工合に好都合に行くものと思つたら大きな間違ひである。歐洲には日本より人口の少い國であり乍ら、平素國民の鍛鍊が行き届き、その兵備も工業も農業もよく發達し、今や四方に敵を引き受けつゝ却つて之を外に壓迫し、猛威を揮つて居る國がある。彼はかゝる鍛鍊に加ふるに現在非常なる實物鍛鍊を加へられつゝある。併も日本は現在この國を敵として居る。將來もこの國と勝敗を争はねばならぬといふことは何人も考へて居ることであらうが、偕てその覺悟準備と問はれたならば如何に答へるであらうか。

此の度の歐洲戦争に於て現れて居る事實に依つて見ると、是からの戦争は、單に軍隊や軍艦に依つてのみ勝敗の定まるものでないといふことが分る。即ち國民が有らんと限りの體力と、有らん限りの財産、有らん限りの智慧を揮つて、最後の一人に至る迄相争ふのが現代の戦争である。今日の戦争は單に殺傷力の争ひではなくして、何れの國の經濟力が先に破壊さるゝか、云ひ換へれば何れの國民の根氣が強いか何れの國民がよく鍛鍊されて居るか云ふことの競争である。故に今日の國防は、軍隊が強い許りでは完しとは云へない。工業も商業も農業も學問も、總てが相伴つて發展することを要する。

例へば之れを交戦國の間の關係に見ても、露西亞は、戦争の始めには聯合國の中心であつた。そして一時に埃太利を壓迫して、ガリシヤを征服し將に匈牙利に侵入し掛けて居つた。其の勢ひは恰も破竹の有様であつた。ところが時日の経過と共に段々後に退いて、今は露西亞に於て最も富裕なる西方の波蘭の如き殆んど全く敵手に委ねて仕舞つて居る。是れは一體何の故であるか、露西亞の兵は決して弱くはない。且つ數に於ては遙に獨逸に優つて居る。それにも拘らず斯かる有様に陥たと云ふのは、畢竟



露西亞人が、兵備は整へて置いたが、工業も是れ亦國防の一要素であるといふことに考へ及ばなかつた爲めである。段々分つて來た事實に依ると、露西亞に於ける軍需品その他重なる工場は、戰爭前は大概獨逸人が之れを經營して居た。従つて露西亞の經濟上の力は常に獨逸に致されて居つた。是れが抑も露西亞の斯かる失敗を招ぐに至つた原因である。

又農業の方面から見ると、獨逸の如きは英吉利が大海軍を以て海上を封鎖し、其の食道を斷つて居るから、開戦後一年ならずして饑れて仕舞ふだらうと云はれてをつたところから今日になつてやうく饑ゑたといふことを聞きはするが、其の國民の意氣は益々興奮して、却つて屢々敵に壓迫を加へて居る。是れは獨逸が平素から農業の發展に重きを置いて、自分の食ふものは自分で作るといふ主義の下に、あらゆる方法を講じて來た結果に外ならぬのである。之れに反して英吉利の如きは、自由貿易主義の下に若しく商工業が發展した爲に、農民が農業を去つて金の儲かる商工業に轉じ、嘗

て總人口の六割四分を占めて居た農民は、遂に二割三分に減じて仕舞つた。其の結果國內で作る食糧は、全需要の五分の一を充たすに過ぎずして、残りの五分の四は之れを海外の供給に仰がねばならぬ有様となつた。

此點に着目したから獨逸は潜航艇封鎖を行つて、英吉利に向ふ荷物船を沈めに掛かつたのである。英吉利も是れには大いに弱つたと見えて、近頃は盛んに國內荒蕪地の開墾に着手し、女子供迄が殆んど總出で働いて居るが、今後尙ほ百五十萬町歩の耕作地を開墾せねば自作の安心が出来ないと苦心して居るといふ始末である。此の事實は吾々に大なる教訓を與へて居るではないか。之れは英吉利が自給自足を立國の本領とせず、國民の爲すが儘に放任し、國民も金さへ手に入れば食物は外國から取り寄せるといふやうな考で、勞働賃金の幾何といふことの勘定より外に考へなかつたのが原因であつて、海面を封鎖して敵の食物を斷たんとして、却つて敵の爲に海中で食物を斷たれるといふ有様になつた譯である。英吉利の今日の苦境は云はゞ自ら招いた報ひで



ある。

之れを要するに、世界の競争場裡に立つて常に優勝の地位を占めるには、兵備も無  
論必要であるが、自給自足を根本の原則として農工商業學問智識の上に大なる努力を  
なすことを要する、併も最後の勝利を得るには、平素から國民を鍛鍊して、何時如何  
なる場合に、國外から何のやうな壓迫を受けてもビクともしない丈の準備と覺悟と  
を、今からして置かなければならぬ、其の爲には特に國民の思想を堅固にし、自給自  
足の觀念を深く青年の間に植付けなければならぬと思ふのである。

### 看過されたる大誘惑

#### 青年を汚毒する活動寫眞

近來各地方の青年團も彼の内務文部兩大臣の訓示の趣旨に依つて漸次改良され、  
訓示の要示を現實に實行すると云ふ機運に段々向つて來たやうである。是に就ては先

づ青年の體力を旺盛ならしむると云ふ必要があるが、一昨年來時勢に刺撃せられて、  
地方の教育家若くは有識階級の人々が、漸次此の方面に注意を向けて來た結果、既に  
昨年の徴兵検査に於ては稍々有望の傾向を呈して居る、之は實に欣ぶべき事で、此際  
一層の努力をして益々青年の體力を旺盛ならしむる事に注意を拂つて行つたならば、  
此の傾向は漸次發展して來るに違ひない。自分も本年の徴兵検査には、其の結果に於  
て昨年より更に發展して居ると云ふことを證據立て、お目に掛きたいと楽しんで居る  
併てこの青年修養に就ては種々の手段方法もあらうが、先づ今日の青年を汚毒する  
誘惑物に對して青年各個の自覺心を養ひ、その感染を豫防する手段を講ずるのが第一  
ではないか、つまり議論よりも實行が第一である。論より證據である。然るに近來活  
動寫眞と云ふものが全國到處に流行して居る。其の活動寫眞の中には實に青年の精  
神を盡かし、乃至は忌むべき感興を惹き起さしむるやうなものが多い。青春の血の燃  
ゆる青年を惑溺する所の事物として、活動寫眞の如く力あるものは少いのである。併



し是は日本許りではない、世界各国に流行して居るから、随つて各國共青年と活動寫眞と云ふことに就ては種々苦心を重ね、何れも青年の見る活動寫眞の種類に制限を加へて居る。若し青年が許可されぬ活動寫眞を見て居ると、警察官が直ぐ之れを外に引張り出して仕舞ふ。又單に警察官ばかりではなく青年の父兄は素より教育に従事する人々は殊に深き注意を拂つて、青年に戒飾を加へて居るから、此の父兄及び教師の戒飾と警察官の制止の力とに依つて最早今日は、青年にして指定以外の活動寫眞に這入つて居るならば、其の人間は正札付の墮落者だと云ふことになるのである。

所が日本では此點に於て頗る寛大である。父兄は素より、或は教育家にしても、青年を戒飾すると云ふ事に就ては何か遠慮して居るやうな傾きがあるやうに思はれる。警察官が之を制止するなごいふことは無論ない、甚だしきは父兄が之に對して注意を拂はぬばかりでなく、自ら青年を連れて活動寫眞に行く、而して相共に見るに堪えないやうな活動寫眞を見て、恬として顧みる事を知らぬ有様である。是は警察の力に依

つて制止すると云ふより、先づ教育の力に依つて青年の心底から改めさせるやうにしなければならぬ。即ち青年の父兄と教育家との間に能く聯絡を執つて注意深く青年に訓戒を加へるといふことが必要である。是が修養と云ふことに就ては目下の急務であると思ふ。此事に就ては、或は心に思ひ口に言ふ人はあるかも知れぬが、實行に着手してゐると云ふことは餘り聞かぬから、特に自分は青年並に青年の指導者に任せられて居る諸君に進言するのである。

### 新編壯丁讀本の精神に就て

毎年徴兵適齡に達した青年に對して、身體検査の前後から入營後の爲に、豫習教育をするといふことが各地方に行はれて居る。是は誠に善いことだと考ふる。所が其の教育の仕方が、多く形式に趨せて精神的方面に疎になつて居るのみならず、地方に依つて區々で、甚だ不統一である。そこで自分は先年壯丁讀本と云ふものを作り、之



に據つて豫習教育の標準を示し、且つ是が統一を圖らうと思ふて居る。即ち入營豫習教育に於ては、此の壯丁讀本の意義を了解せしめたならば之を以て足つて居ると自分は信ずる。又一年志願兵となる所の權利を得べき資格のある中等以上の學校の學生とか、六週間現役兵の特典を與へらるゝ所の師範學校の生徒でも、入營前に此本を見て軍隊の如何なるものであるといふ觀念を養つて置きたい。此の觀念を得て居れば入營後肉體的にも精神的にも決して苦痛を感ずるものではないと自分は考へる。

毎年徴兵検査の結果補充兵になる人が十六七萬人ある。其中兵營に召集を受けて教育せらるゝ者は、實に僅小部分に過ぎない。後は未教育の儘補充兵として郷里に居るものであるが、但し教育を受けなくても彼等は在郷軍人である。所が今度の歐洲戰爭に於ける各國の狀態に鑑みても、此の未教育の補充兵が、豫後備兵と同様に直ちに召集さるゝものであると云ふ實例を示し、其の必要なることを證明して居る。

完全なる國軍は單り豫後備又はは在郷軍人許りではなく、一般國民悉く起つて兵

器を把り、戰爭に従事すると云ふのでなければ將來の國難に堪へ得らるゝものではない、國民に其の覺悟があつて、始めて戰爭で勝利を期することが出来るのである。而して此の覺悟を持つるには犠牲的觀念が旺盛でなければならぬ。犠牲的觀念を旺盛ならしむるといふことは、國民皆兵の意義を國民に徹底せしむるといふことである。斯の如くして始めて國軍の強大を期することが出来、同時に其國の農工商業の發達を期することが出来るのである。然るに今日の未教育補充兵の人達には自分の軍人であることを殆んど忘れて居る様に見える人がある。さうゆふ人達には必ずこの本を讀ませて、將來國難に際して充分に用を爲し、兵役に對する義務を全ふするやうにさせたいのである。又此の意味から未教育の補充兵に對しては、豫後備兵と同様近き將來に於て簡閱點呼を行ふと云ふことの證議が其筋に於て行はれて居る。場合に依つては經費が許せば之を召集して教育すると云ふことになるかも知れない。

尙ほ自分は壯丁讀本を青年の讀本に供して、青年の修養に資し度いと思ふて居る。



青年團指導に就て最も必要なのは、青年の智徳品性の修養に適當なる讀物である。此の讀物に依つて國民皆兵の意義を一般國民に徹底せしめ、青年をして常に覺悟を決めさせて置くと云ふことは、其の青年の修養に最も必要なことであると思ふ。一つはさう云ふ考から此本を著述したのである。而して中に書いてある文字も、凡そ義務教育が了つた者が讀み得る程度に準じて書いた積りであるから、さして難しくはあるまいと思ふ。要するに自分は、青年をして悉く軍人ならしむると云ふ見地から之を青年に奨むるのではなく、我國の國是たる國民皆兵の意義を徹底せしめ、同時に之を現實ならしむる場合に際しての覺悟と智識とを彼等に與へたいものであると考へたのである。又青年に對する軍事方面の教養の程度としては、是で澤山である。即ち軍事方面から言へば、是が青年に對する要求の限度であると斯う自分は考へる。

尙ほ此本に書いてある所のものは、軍人の持つべき精神であるが、併し軍人の精神と云つても、國民の服すべき事柄と云つても、其間に決して變りはないのである。

軍人精神は即ち國民の精神である。而してその精神は剛健質實なる氣風を起し、浮華輕佻なる時弊を救ふ道であると考へる。是が即ち一面から云へば、良民に依つて良兵を得、良兵に依つて良民を得ると云ふ軍隊教育の根本義になるのである。此の根本義を敷衍したものが即ち此の壯丁讀本である。故に成るべく此の讀本を青年學生等に讀ませて貰つたならば、自分の折角の微意も聊か國家に貢獻する所があるであらうと考へる。

### 更に一段の自覺と努力

農事の振興と云ふ事に就ては私が屢々言ふ所であるが、さて愈々農事を振興する上に就ては、在郷軍人諸君が本業としてやられても又は副業としてやられるにしても、それに對する理解と智識とが伴ふて居なければ、如何に奮發努力せられても、其割合に効果が擧がらぬものである。



今回在郷軍人諸君の爲に「通俗産業講話」といふ小冊子を刊行したが之れは、在郷軍人諸君に對して、産業上の理解と智識とを與へて、一家の爲、一村の繁榮、一國の富強を圖らうとするの趣旨に外ならぬのである。此「通俗産業講話」は極めて通俗的に解釋したものであるから、分會としては會員諸君に此冊子を讀ませて、農事上の改良進歩を圖り、又一面副業を求められる上に就ては、餘程利益のあることと思ふのであるから、分會長や役員諸君は先づ此本を本部から取寄せて差し當り講習會を始め相互ひに之を研究するといふ事が最も今日の時世に適する要件だと思ふ。分會長役員諸君は申すに及ばず（殊に諸君の利便を圖つて安價で殆んど實費的に諸君の御希望を満たすやうに準備してあるから）之を一般の會員諸君に薦めて之に則つて講習會をさせ、智識を促進し、農事上の啓發をする材料にせられるがよからう而して又諸君が閱讀せらるゝのみに止めず、更に町村の一般の人々に向つて理解と智識との普及を計るといふことをも、諸君は努めらるゝ必要があるから、此事は私から殊に御注意を

申上げる次第である。で、差當り會員諸君に於て講習會を開かれて私のいふことを實行せられんことを希望する。

在郷軍人會としては、従來屢々御注意を致す事ではあるが、又簡閱點呼に依つて近年勤務演習召集された人々に就て、分會の状況、實狀を觀察して見ると、ごうも分會の内容が未だ充實したとは遺憾乍ら申されない、充實どころではない、軍人會としての實際の價値といふものが果してあるか否かを疑はしめる點が多い。又分會員相互の結束、意思の疏通、軍人の最も大切なる協同一致の觀念の程度も未だ完全とは斷言が出来ぬ。

唯分會はと云へば、分會長又は役員諸君が單獨でヤキモキ慌せつて居られるだけで其熱心なる程會員に對して意志が徹底して居らぬやうに見受けられる、就中、未だに在郷軍人會といふものゝ趣旨を了解して居らぬ者があり、殊に甚以て遺憾千萬に思ふのは、大正三年十一月、又大正五年御大典の際の、御勅語の趣旨が如何なる事柄で



あるかを了解して居るといふものは甚だ少い。恁んな人が今日帝國の在郷軍人中に存在するといふのは誠に畏多い、残念至極な次第ではないか、此點丈は何とかして、徹底するやうに分會長役員諸君は方法手段を講せられなければならぬではないか。分會として當然の事業たる、在郷軍人の精神を如何にして鍛鍊するかに就ても殆んど方法手段が講じてあるか無かさへも疑はねばならぬやうな始末である。

そこで、私は毎度言ふのであるが、各分會では是非共「五人組」又は戰友班とでもとにかく名稱は何でも宜しいとして、を作つて、其組合毎に申合せをして漸次に結束を全分會に押し及ぼして意思の徹底を圖り、云はゞ、分會内に一の單位を作つて、多くの單位をば分會長が纏めて行くといふ事ではならぬ。組合員なり班員なりは如何なることがあつても苦樂を俱にして、最も親密なる關係を相互に保つて行くので、これは近來各地方に於て盛んに行はれるやうになつたが、此成績は大變よろしいやうである。恁んな事さへも實行されないやうでは、到底分會といふものは充實が

出来るものでない、其故分會の組織には是非共此「五人組」を作つて、總ての會員を結束し會員全體の意思を纏めて行くべきで、此方法さへも出来ぬとあつては、何事を爲しても効果を擧げるといふことは不可能である。

抑々在郷軍人分會は地方にあつては組織的團體としては唯一のものではあるし、又分會員諸君は今日に於ける所謂「働盛りの人達」である。此人達が互ひに心を合はせ、協同一致して事を爲す以上は地方の風教も改善せられ、生産力も増加し、自治體も圓滿になり、青年の氣風も益々改善せられずには居らぬ筈である。其故吾々を始め各方面の方々も、共に大に在郷軍人會といふものに希望を屬する所以である。然るに、會員諸君は夫れだけの自信力、自負心もないのではあるまいかと私は竊かに疑ふ次第である。今の裡に何とかして諸君の自覺を得たらば、頽勢を盛直ほすことも出来るであらうが、今日自覺されなければ、最早自覺する時は無いと思ふのである。諸君は「其日暮し」即ち消極的では斷じていけない。必ず發展心、奮發心を發揮されなければ